



Peregrine | AssetCenter  
はじめに

---

© Copyright 2002 Peregrine Systems, Inc.

All rights reserved.

本書に記載されている情報は、Peregrine Systems, Incorporatedが所有し、Peregrine Systems, Inc.の書面による許可なく使用または開示することはできません。本書の一部または全部を、Peregrine Systems, Inc.の事前の書面による許可なく無断で複製することを禁じます。本書に記載されている商品名は、該当する各社の商標または登録商標です。

Peregrine Systems ®およびAssetCenter ®は、Peregrine Systems, Inc.の商標です。

本書で説明されているソフトウェアは、Peregrine Systems, Inc.とエンドユーザ間で締結されるライセンス契約に基づいて提供されます。契約の条項に従って、ソフトウェアを使用する必要があります。Peregrine Systems, Inc.は、本書の内容については一切の責任を負いかねます。また、本書の内容が予告なく変更されることもあります。本書の最終バージョンの日付を確認するには、Peregrine Systems, Inc.のカスタマサポートまでお問合せください。

デモ用データベースと本書の例に使用されている団体名および個人名は架空のものであり、本ソフトウェアの使用方を説明するためのものです。現在、過去を問わず、実在する団体や個人とのいかなる類似もまったくの偶然によるものです。

本製品に関する技術情報の請求、またはライセンスをお持ちの製品に関するマニュアル類の請求については、Peregrine Systemsのカスタマサポート ( support@peregrine.com ) までお寄せください。

本マニュアルに関するご意見やご要望は、Peregrine Systems, Inc.の出版部 ( doc\_comments@peregrine.com ) までお寄せください。

本書の内容は、ライセンス契約に基づくプログラムのバージョン4.2.0に適用されます。

AssetCenter

Peregrine Systems, Inc.  
Worldwide Corporate Campus and Executive Briefing Center  
3611 Valley Centre Drive San Diego, CA 92130  
Tel 800.638.5231 or 858.481.5000  
Fax 858.481.1751  
www.peregrine.com



# 目次

前書き	11
1. AssetCenterの基礎	13
本書で使用される表記法	14
オンラインヘルプの使い方	14
一般的なオンラインヘルプ	15
フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプ	15
ワンポイント	15
データベースの概要	16
データベースの定義	16
データベース管理システム	17
データベースのモデル	18
2. AssetCenterを初めて使用する	21
AssetCenterを起動する	21
Windowsの [ スタート ] メニューから起動する	22
コマンドラインから起動する	22
AssetCenterを終了する	23
データベースに接続する	23
Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続する	24
Windows NTの統合セキュリティを使用して接続する	24

データベースとの接続を切断する	25
AssetCenterの作業領域	25
メニュー	25
ツールバー	26
ステータスバー	26
機能とお気に入りの枠	26
ツールのヒント	27
システム情報、インストール済みおよび認識されているコンポーネント	27
レコードリスト	28
リストの機能	28
リストを使う	28
リスト内を移動する	29
レコードリストに関連するアクションボタン	30
階層構造	30
リスト表示のパラメータ	32
統計の表示	33
メインリストを設定する	34
ドロップダウンリストを設定する	39
リスト内でレコードを検索する	39
リスト内でレコードを操作する	40
リストを出力する	41
レコードの詳細情報	42
レコードの詳細画面にアクセスする	42
リストと詳細の組合せ表示	42
ウィンドウのサイズを変更する	43
詳細画面の主要ボタン	44
タブページ	45
ユーザ定義フィールド	45
レコードの処理	46
レコードを作成する	46
レコードを変更する	48
複数のレコードを変更する	48
複数のユーザがレコードを変更する	49
レコードを複製する	50
レコードを削除する	51
フィールドに値を入力する	51
フィールドにデフォルト値を入力する	52
切り取り	53
コピー	54
貼り付け	55
テキストを削除する	56
日付のデータ入力規則	56
期間の単位のデータ入力規則	57

時刻のデータ入力規則 . . . . .	57
「日付+時刻」フィールドのデータ入力規則 . . . . .	58
画像 . . . . .	58
<b>3. ユーザのコンピュータでAssetCenterをカスタマイズする . . . . .</b>	<b>61</b>
モジュールを起動する . . . . .	61
ツールバーをカスタマイズする . . . . .	62
ツールバーにアイコンを追加する . . . . .	62
ツールバーからアイコンを削除する . . . . .	62
ツールバー内のアイコンの位置を変更する . . . . .	63
ツールバーに境界線を追加する . . . . .	63
ツールバーから境界線を削除する . . . . .	63
ツールバーをデフォルト設定に戻す . . . . .	63
ツールバーの位置を変更する . . . . .	64
タブページをカスタマイズする . . . . .	64
AssetCenterの一般的な操作オプション . . . . .	65
<b>4. リスト内でレコードを検索する . . . . .</b>	<b>69</b>
検索用フィルタの概要 . . . . .	69
使用可能なフィルタの種類 . . . . .	69
フィルタの用途 . . . . .	70
フィルタの適用規則 . . . . .	71
リストの使用 . . . . .	72
1つまたは複数のシンプルフィルタ適用する . . . . .	73
クエリフィルタを作成する . . . . .	74
<b>5. ウィザードの概要 . . . . .</b>	<b>77</b>
ウィザードの定義 . . . . .	77
ウィザードのユーザ . . . . .	78
ウィザードの分類 . . . . .	78
AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード . . . . .	78
独立ウィザード . . . . .	79
<b>6. ビューの使用方法 . . . . .</b>	<b>81</b>
ビューの定義 . . . . .	82
ビューを作成する . . . . .	83
ビューを表示する . . . . .	83
ビューを削除する . . . . .	83
ビューを変更する . . . . .	84
ビューを編集する（管理者向け） . . . . .	84

<b>7. スケジュールのグラフィック表示</b> . . . . .	87
概要 . . . . .	87
スケジュールのグラフィック表示のページの使用 . . . . .	89
実用例 . . . . .	91
スケジュールのグラフィック表示のページ機能をカスタマイズする . . . . .	94
<b>8. データの印刷</b> . . . . .	95
リストの情報を印刷する . . . . .	95
複数レコードの詳細を印刷する . . . . .	97
印刷プレビュー . . . . .	97
<b>9. Knowlix</b> . . . . .	99
<b>10. 参考情報</b> . . . . .	101
接続 . . . . .	101
データベースへの接続を作成する . . . . .	101
データベースへの接続を削除する . . . . .	103
AssetCenterのパフォーマンス . . . . .	103
アクション . . . . .	104
アクションの種類 . . . . .	104
アクションの実行 . . . . .	105
メッセージ . . . . .	106
新規メッセージのチェック . . . . .	106
履歴 . . . . .	106
アラーム . . . . .	107
ショートカットキー . . . . .	107
エラーメッセージ . . . . .	112

# 図の一覧表

---

2.1. 従業員のテーブル - ツリー構造 . . . . .	31
2.2. 従業員のテーブル - リストの並べ替えツール . . . . .	34
2.3. リストの表示方法の設定 . . . . .	36
2.4. 「リストと詳細」モードでの表示 . . . . .	43
2.5. レコードの作成 . . . . .	47
3.1. 詳細画面のタブページの選択 . . . . .	65
4.1. 資産の対象となる契約用の専用フィルタ . . . . .	70
4.2. クエリの作成画面 . . . . .	74
6.1. ビューに保存される項目 . . . . .	82
7.1. スケジュールのグラフィック表示 - 画面 . . . . .	89
7.2. スケジュールのグラフィック表示 - 作業指示での例 . . . . .	93







# 表の一覧表

---

2.1. 特殊フィールド - 列の色 . . . . .	38
4.1. 比較演算子 . . . . .	71
10.1. ショートカットキーの一覧 . . . . .	107



# 前書き

---

本マニュアルではAssetCenterの使用方法に慣れることに主眼を置いています。  
本書では、AssetCenterの使用時に実行する基本操作を詳しく説明します。  
本マニュアルは、画面上操作のため参考書の役割も果たしています。  
次章以降では、ソフトウェアの画面上での操作方法が説明されています。  
本マニュアルは主に以下の読者を対象にしています。

- 初級ユーザ
- 新規機能が追加されたAssetCenterの新規バージョンのユーザ



# 1 | AssetCenterの基礎

---

AssetCenterは、複数のモジュールから構成されるIT技術管理システムで、各モジュールは共通のリポジトリに統合されています。AssetCenterではポートフォリオを管理できるだけでなく、ポートフォリオ内の各品目のライフサイクルに関連する出来事（資産の取得や、税金、TCO、メンテナンス契約、作業指示などのコストの管理）も管理できます。

「統合」ソフトウェアであるAssetCenterでは、同じインターフェイスから全機能へアクセスすることができ、また単一のデータベースを使うため情報が重複しません。「機能的」なAssetCenterでは更に、必要な機能のみを選択してインターフェイスを変更することができます。この結果インターフェイスは簡略化されます。

---

## 重要項目:

アクセスできる機能のリストは、ペレグリンシステムズから取得したライセンスに応じて異なります。

---

本マニュアルではAssetCenterの基本的な概念を説明しており、通読すれば本ソフトのグラフィカルインターフェイスにすぐに慣れることができます。

## 本書で使用される表記法

本書で使用される表記法は以下の通りです。

表記法	説明
Java Scriptコード	コードやコマンドの例
Courier体のテキスト	DOSコマンド、関数のパラメータおよびデータフォーマット
その他	コードまたはコマンドの省略
注意:	補足情報
補足情報は...	
<b>重要項目:</b>	重要な情報
以下の注意事項は...	
<b>ヒント:</b>	ヒント
使用上のヒント...	
<b>警告:</b>	非常に重要な情報
警告情報	
<b>[オブジェクト名]</b>	AssetCenterのグラフィカルインターフェイスのオブジェクト名(メニュー、タブ、ボタンなど)

次の規則も適用されます。

- 操作の手順は、以下のような番号付きのリストで表記されます。
  - 1 手順1
  - 2 手順2
  - 3 手順3
- 図や表には、各章ごとに順番に番号が付いています。例えば第2章の4番目の図には「**図**2-4」という番号が付きます。

## オンラインヘルプの使い方

AssetCenterの使用中に、オンラインヘルプを使って画面上でヘルプテキストを読むことができます。

情報を検索する際、複数のオンラインヘルプを使用できます。

## 一般的なオンラインヘルプ

一般的なオンラインヘルプには、印刷版のマニュアルとほぼ同じ情報が含まれています。

ヘルプを表示するには、AssetCenter画面をアクティブにした状態で [ F1 ] キーを押します。

### 注意:

Basicスクリプト（ソフトの一部の操作をカスタマイズし系統立てるための簡易プログラム）の編集用ウィンドウでは、[ F1 ] キーを押すとAssetCenterの『**プログラマーズリファレンス**』が表示されます。このオンラインヘルプは状況依存ヘルプです。例えばスクリプトの作成中に、Basic関数の正確なシンタックスを忘れてしまった場合、スクリプト内の関数の名前を選択し [ F1 ] キーを押します。すると、『**プログラマーズリファレンス**』の中からこの関数に関する説明が表示されます。

## フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプ

フィールドまたはリンクの状況依存ヘルプには、次の情報が表示されます。

- フィールドまたはリンクのSQL名
- データ型およびデータの入力形式
- フィールドまたはリンクについての説明
- 入力値の例
- 注：データ入力時の注意、自動処理機能など
- システムのリストデータ値
- リンクしているテーブル

状況依存ヘルプは、次の2つの方法で表示できます。

- フィールドまたはリンクに移動してから、[ Shift ] キーと [ F1 ] キーを同時に押します。
- フィールドまたはリンクに移動し、マウスの右ボタンをクリックしてポップアップメニューを表示し、[ **フィールドのヘルプ** ] メニューを選択します。

フィールドおよびリンクの状況依存ヘルプの内容は、印刷版マニュアルには記載されていません。

## ワンポイント

このオンラインヘルプは、AssetCenterの起動時にソフトウェア使用上のヒントを表示します。

**[スタートアップ時に表示する]** チェックボックスをオフにすると、この機能を無効にできます。 **[次へ]** ボタンをクリックすると別のヒントを表示できません。

**[ヘルプ/ご存知でしたか]** メニューを選択すると **[ご存知でしたか]** のウィンドウをいつでも表示できます。

## データベースの概要

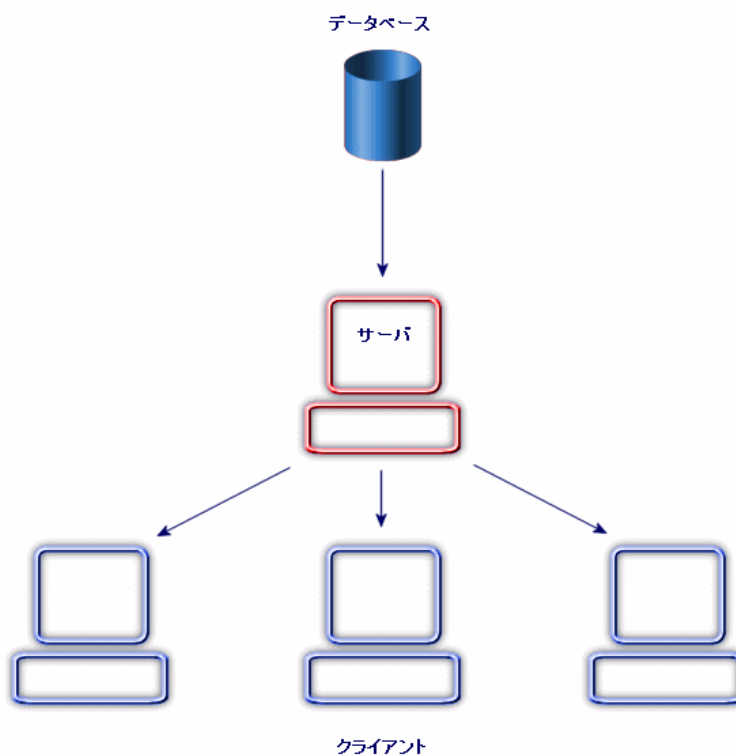
AssetCenterの使用は、データベースの使用と密接な関係があります。AssetCenterの作業領域とデータベースへの参照機能は、データベースの複雑な構造ができるだけユーザの目に触れないように設計されています。しかし、データベースに関する基本的な知識があると、AssetCenterの全マニュアルで使用されている概念を理解しやすくなります。

## データベースの定義

データベースは、データの重複を避けつつデータを構造的に格納するエンティティです。データはプログラム（この例ではAssetCenter）やユーザにより使用されます。データベースの概念は、データベースの情報を共有化するネットワークの概念に頻繁に関連付けられます。この場合、データベースは分散データベースと呼ばれ、情報は複数の遠隔コンピュータに格納され、あるユーザグループがネットワーク経由でアクセスできるようになっています。この反対はローカルデータベースで、これは1台のコンピュータにインストールされており、コンピュータのユーザのみがアクセスできるデータベースを指します。分



分散データベースの利点の1つは、複数のユーザが同時に格納された情報にアクセスできることにあります。



## データベース管理システム

データと、データにアクセスするユーザを管理するには、DBMS（データベース管理システム）を使用します。DBMSの使用により以下の操作が可能になります。

- データにアクセスする。
- ユーザのデータへのアクセスを管理する。
- データに基本的操作を実行する。
  - 挿入：データの追加
  - 削除：データの削除
  - データの変更

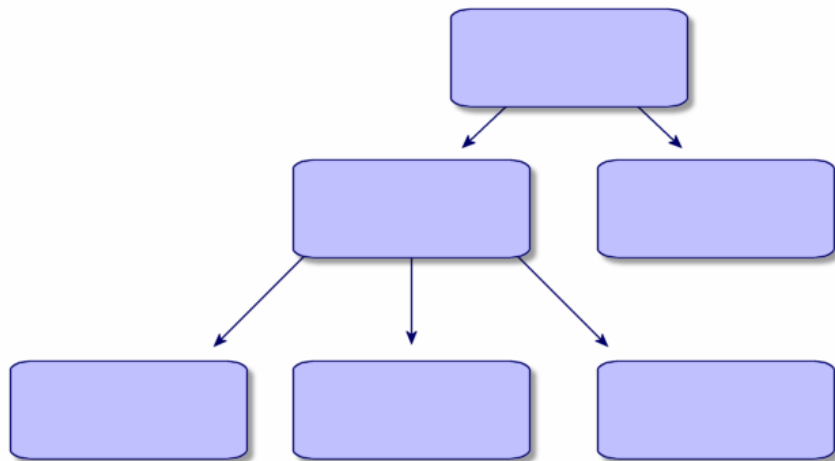
AssetCenterは、主なDBMSと互換性があります。

## データベースのモデル

情報を系統立てて編成するには、一般的にデータベースの2つの主要モデルが使用されます。

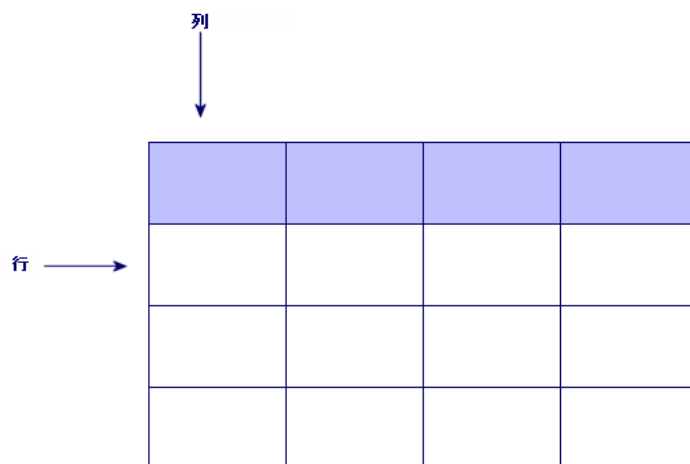
### 階層型モデル

このモデルでは、以下の図のようにデータが降順のツリー構造で階層的に編成されています。



## 関係型モデル

このモデルでは、以下の図のようにデータが行と列を含むテーブル内に編成されています。

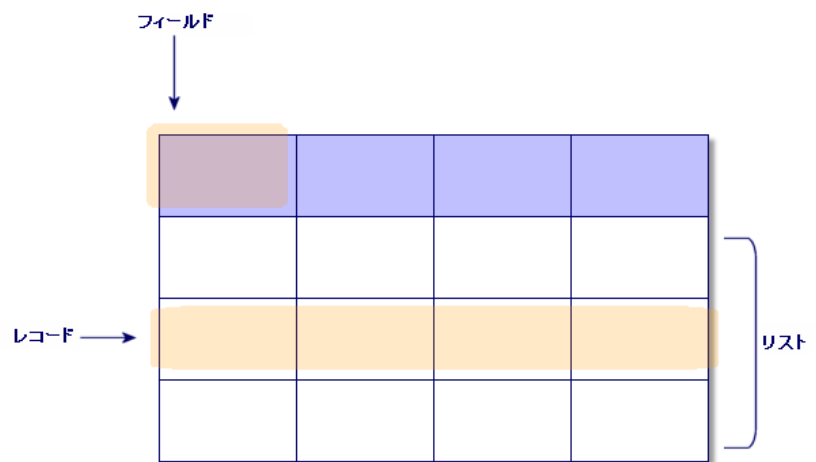


データベースの各要素は以下のように定義されます。

- レコードは、テーブル内の1行にあるデータ全体を指します。
- フィールドは、テーブルの列のタイトルに当たります。
- フィールド値は、テーブル内の1セルの値に当たります。

AssetCenterでは更に、2つの補足的概念が導入されています。

- リストは、テーブル内のレコード全体を構成します。
- 詳細は、1シート内の1レコードの情報をまとめ、論理的な方法で分類します。



ここで説明されている概念は、AssetCenterの使用にあたり非常に有用です。

## 2 | AssetCenterを初めて使用する

本章ではAssetCenterの環境に慣れることに主眼を置いています。ここでは特に、AssetCenterの起動後に必要となる基本操作を詳しく説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- AssetCenterを起動する
- データベースに接続する
- AssetCenterの作業領域を使用する
- データの標準の表示方法（リスト、詳細など）を使用し、設定する
- データベースに新規データを入力し、レコードを変更する

### AssetCenterを起動する

次のいずれかの方法でAssetCenterを起動できます。

- オペレーティングシステムの【スタート】メニューを使う。
- コマンドラインから起動する。

## Windowsの [ スタート ] メニューから起動する

[ スタート ] メニューからの起動は、AssetCenterがインストールされているフォルダにより異なります。

デフォルト値を使ってインストールした場合は、[ スタート / プログラム / Peregrine / AssetCenter / Peregrine AssetCenter ] を選択してAssetCenterを起動します。

## コマンドラインから起動する

AssetCenterをDOSのコマンドプロンプトから起動するには、

- 1 例えば [ スタート / アクセサリ / コマンドプロンプト ] メニューを選択して、DOSのコマンドプロンプトを開きます。
- 2 AssetCenterのインストール先フォルダのサブフォルダ「bin」へ移動します。  
例えばAssetCenterをデフォルトで指定されるフォルダにインストールする場合、以下のコマンドを実行します。

```
cd Program Files /Peregrine /AssetCenter /bin
```

- 3 コマンドラインを入力し、[Enter] キーで確定します。

AssetCenterを起動するには、次のシンタックスに従います。

```
am [-?|h|H] [-cnx:<cnx>] [-login:<login>] [-password:<password>] [-view:<view>] [-config:<config>]
```

パラメータ

- -?, hまたはH：このヘルプメッセージを表示します。
- -cnx：データベース接続名（ [ ファイル / データベース接続の管理 ] メニューを選択すると表示される接続の詳細画面の [ 接続 ] タブページ / [ 名前 ] フィールド）
- -login：データベースに接続する従業員のログイン（ [ ポートフォリオ / 部署と従業員 ] メニューを選択すると表示される従業員の詳細画面の [ プロファイル ] タブページ / [ ログイン ] （SQL名：UserLogin）フィールド）
- -password：ログインに対応するパスワード（ [ ポートフォリオ / 部署と従業員 ] メニューを選択すると表示される従業員の詳細画面の [ プロファイル ] タブページ / [ パスワード ] （SQL名：LoginPassword）フィールド）
- -view：起動時に表示されるビュー（ [ ツール / ビュー ] メニューから選択可能なビュー）
- -config：起動するモジュール
  - itam：ポートフォリオ
  - barcode：バーコードによる棚卸
  - procurement：調達

- contract : 契約
- finance : ファイナンス
- cable : ケーブル
- DA\_RemoteControl: Remote Control
- DA\_Automation: Desktop Administration
- admin : 管理

複数の機能を起動するには、各機能をカンマで区切ります。

例

```
am -cnx:Base -login:util -password:MotDePasse -view:BiensPentium -config:itam,procurement
```

 **警告:**

パラメータ値ではスペースは使用できません。

## AssetCenterを終了する

AssetCenterを終了するには、[ファイル/終了]メニューを選択します。

終了時は、次の処理が行われます。

- 開いたすべてのウィンドウを閉じ、その位置を保存する。
- 変更されたレコードをバックアップするかどうかを確認するメッセージを表示する。
- データベースに加えられた変更を保存するかどうかを確認するメッセージを表示する（管理者アカウントの場合のみ）。
- データベースを閉じ、データベースエンジンとの接続を切断する。
- 接続していたユーザの接続スロットを解放する。
- アプリケーションを終了する。

## データベースに接続する

データベースに接続する方法には、Windows NTに統合されたセキュリティを使用する方法と、使用しない方法の2つがあります。

 **注意:**

指定したAssetCenterセッションで1度にかけるデータベースは1つだけです。

## Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続する

Windows NTの統合セキュリティを使用せずに接続するには、

- 1 **【ファイル/データベースに接続】**メニューを選択します。
- 2 **【接続】**フィールドのドロップダウンリストから、既定の接続の1つを選択します。
- 3 **【ユーザ】**フィールドに、管理者が**【従業員】**テーブル（SQL名：amEmplDept）で定義した**【ログイン】**名（SQL名：UserLogin）を入力します。  
**【ファイル/データベース接続の管理】**メニューを使って、希望するデータベースに接続することもできます。接続を選択し**【開く】**をクリックします。  
 管理者として接続する場合は、「Admin」と入力します。
- 4 **【パスワード】**フィールドにパスワードを入力します。  
 データベースを初めて開く場合は、管理者に割り当てられたパスワードを使用します。データベースが一度開いた後は、**【ツール/パスワードの変更】**メニューでパスワードを変更できます。
- 5 **【開く】**をクリックします。

## Windows NTの統合セキュリティを使用して接続する

この接続モードには以下の特徴があります。

- AssetCenter管理者は、最低でも1回AssetCenter Serverを起動していなければなりません。
- Windows NT、2000とXPのクライアントコンピュータにアクセスできます。
- Windows 95、98とMEのクライアントコンピュータにはアクセスできません。
- Windows接続時のログインと同じログインでAssetCenterデータベースに接続します。

Windows NTの統合セキュリティを使用して接続するには、

- 1 **【ファイル/データベースに接続】**メニューを使います。
- 2 **【接続】**フィールドのドロップダウンリストから、既定の接続の1つを選択します。
- 3 **【統合NTセキュリティ使用】**チェックボックスをオンにします。
- 4 **【開く】**をクリックします。



 ヒント:

この接続モードでは、[ログイン]と[パスワード]フィールドに値を入力する必要はありません。AssetCenterはWindowsのログインとパスワードを使用します。

## データベースとの接続を切断する

[ファイル/データベースの接続解除]メニューを選択すると、開いたデータベースを閉じることができます。

変更を加えた場合、AssetCenterは変更事項を保存するかどうかをユーザに確認します。

## AssetCenterの作業領域

ここでは、AssetCenterの作業領域について説明します。作業領域は常に表示され、アプリケーションの他のすべてのウィンドウはこの中に表示されます。

内容は次の通りです。

- メニュー
- ツールバー
- ステータスバー
- 機能とお気に入り用のウィンドウ枠
- ツールのヒント
- システム情報、インストール済みおよび認識されているコンポーネント

## メニュー

### メニューバー

AssetCenterのすべてのコマンドには、メニューバーからアクセスできます。

 注意:

起動できるメニューの内容は、ペレグリンシステムズのライセンス契約に応じて変化します。

## 状況依存（ポップアップ）メニュー

ポップアップメニューでは、マウスのポインタが位置するゾーン用のメニューが表示されます。マウスの右ボタンをクリックするとメニューが表示され、必要なコマンドを選択できます。

## ツールバー

ツールバーのアイコンをクリックすると、コマンドを選択できます。各アイコンを使用すると、メニューバーを経由せずにAssetCenterの機能を起動できます。

**【ツール/ツールバーのカスタマイズ】**メニューで、またはツールバーのアイコンのない部分を右クリックすると表示されるポップアップメニューで、ツールバーの設定を変更できます。

## ステータスバー

作業領域の下部にはステータスバーがあり、以下の情報が左から右に順番に表示されます。

- 選択されているゾーン（アクティブフィールドまたは強調表示されているコマンド）に関する情報
- 開いているデータベースと使用しているログイン名
- 現在の操作モード（参照、作成、変更）
- 時刻

## 機能とお気に入りの枠

デフォルトでは、作業領域の左側に以下の2つのタブが付いたウィンドウ枠が表示されます。

- **【機能】**タブではAssetCenterの機能が機能ドメインごとに表示されます。メニューバーからアクセスできる主要機能には、このウィンドウ枠からもアクセスできます。選択可能なAssetCenterの機能ドメイン（アクション、ビューなど）の全要素が枠内に表示されます。ウィンドウ枠内の内容は状況により変化します。
- **【お気に入り】**タブでは個人的なお気に入り項目を保存できます。このタブから、頻繁に使用する画面、ビューやその他の要素に直接アクセスできます。お気に入りを作成するには、
  - 1 **【機能】**タブ内でお気に入りとして使用するリンクを選択します。
  - 2 右クリックします。
  - 3 ポップアップメニューから**【お気に入りに追加】**を選択します。

- 4 リンクが作成され [ お気に入り ] タブ内に表示されます。

## ツールのヒント

マウスカーソルをツールバーのアイコンなどの特定の領域にしばらく置くと、ツールのヒントが表示されます。

ツールのヒントの表示と非表示を切り替えるには、 [ 編集 / オプション ] メニューを選択します。

### 例

リストの列幅が狭いために列の値が途中で切れている場合、その値上にカーソルをしばらく置くと、完全なテキストが表示されます。

## システム情報、インストール済みおよび認識されているコンポーネント

[ Peregrine AssetCenterのバージョン情報 ] ボックスには、AssetCenterに関するすべてのシステム情報が表示されます。

[ Peregrine AssetCenterのバージョン情報 ] ダイアログボックスを表示するには、 [ ヘルプ / AssetCenterのバージョン情報 ] を選択します。

コンピュータにインターネットブラウザがインストールされている場合は、<http://www.peregrine.com> [<http://www.peregrine.com>] ハイパーテキストリンクをクリックすると、Peregrine SystemsのWebサイトにアクセスできます。

[ 詳細 ] をクリックすると、コンピュータにインストールされているAssetCenter関連のパッケージとAssetCenterが認識しているパッケージを確認できます。

この画面には次の情報が表示されます。

- インストールされているソフトウェア (バージョン番号、説明、ソフトウェア名など)。 [ ソフトウェア ] の下にまとめられています。
- クライアントのコンピュータ。 [ システム情報 ] の下にまとめられています。
- 現在開いているデータベースに関する情報
- AssetCenterと互換性のあるデータベースエンジンに必要なDLL
  - DLL (ダイナミックリンクライブラリ) がインストールされている場合は、AssetCenterによって自動的に検出されます。2番目の列にそのライブラリへの完全パス、3番目の列に追加情報が表示されます。
  - DLLが検出されなかった場合は、2番目の列には、 [ ファイルが見つかりません。 ] というメッセージが表示されます。
  - DLLが検出されても、追加情報が検出されなかった場合は、2番目の列には [ 情報はありません。 ] というメッセージが表示されます。

情報をクリップボードにコピーするには、**【コピー】**をクリックします。インストール済みおよび認識されたパッケージの表示ウィンドウを閉じるには、**【閉じる】**をクリックします。

## レコードリスト

本節の内容は次の通りです。

- リストの機能
- リストを使う
- リスト内を移動する
- レコードリストに関連するアクションボタン
- 階層構造
- リスト表示のパラメータ
- 統計の表示
- メインリストを設定する
- ドロップダウンリストを設定する
- リスト内でレコードを検索する
- リスト内でレコードを操作する
- リストを出力する

## リストの機能

AssetCenterのデータベースには大量の情報が含まれています。このデータは、**テーブル**（資産、契約など）で分類されています。各テーブルには、テーブル内の各アイテム（資産、モデル、契約など）の**レコード**が含まれています。

これらのレコードに素早くアクセスできるように、AssetCenterプログラムでは**テーブル**に含まれているレコードを**リスト**として表示します。特定のレコードに関する情報にアクセスするには、リストでそのレコードを選択します。

## リストを使う

リストは、指定したタイプのレコードを一覧表示するためのウィンドウです。このリストを使って、レコードを検索、変更したり、1つのレコードに関する詳細情報を表示することができます。

リストを表示するには、ツールバー上のボタン、または使用するレコードのタイプに対応するメニューを使います。

**注意:**

管理者は、**[管理/画面一覧]**メニューを使ってAssetCenterのリストの一覧を表示することもできます。

## リスト内を移動する



リスト内を移動するにはいくつかの方法があります。これらの方法は、メインリスト（資産など）の場合も、詳細画面内のリスト（資産に関する契約など）の場合も同じです。


リスト内を移動する方法はいくつかあります。

- 編集メニューを使用する
  - 最初のレコード：[編集/最初のレコード]
  - 前のレコード：[編集/前のレコード]
  - 次のレコード：[編集/次のレコード]
  - 最後のレコード：[編集/最後のレコード]
- ファンクションキーを使う
  - リストの先頭：[Ctrl+F11] キー
  - 前のレコード：[F11] キー
  - 次のレコード：[F12] キー
  - リストの最後：[Ctrl+F12] キー
- キーボードを使う
  - リストの先頭：[Home] キー
  - 前のレコード：上向き矢印キー
  - 1ページ戻る：[Page Up] キー
  - 1ページ進む：[Page Down] キー
  - 次のレコード：下向き矢印キー
  - リストの最後：[End] キー
- 垂直または水平スクロールバーを使う

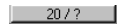
## リスト内の読み込み用ボタン

AssetCenterでは、自動的にリストに表示されるレコードの最大数を指定できません。**[編集/オプション]**メニューの**[リスト]**項目で**[読み込む項目数の限度]**に数を入力します。

オプションで指定されたレコードの最大数に応じて、上にある  ボタンを使うと前のレコードが表示されます。下にある  ボタンを使うと後続のレコードが表示されます。

前のレコードまたは後続のレコードをすべて読み込むには、[ Shift ] キーを押したまま  ボタンをクリックします。

## リスト内の読み込みのインジケータ

 のボタンには、データベース内のレコード総数と、検索して読み込んだレコード数が表示されます。

右側の数字の位置に「？」マークが表示される場合は、ボタンをクリックして再計算します。



## レコードリストに関連するアクションボタン


**【新規作成】**：新しいレコードの詳細を入力できる空の詳細画面が表示されません。レコードは、**【作成】** ボタンをクリックするまで作成されません。

**【複製】**：選択したレコードの情報を新しい詳細画面にコピーします。レコードは、**【作成】** ボタンをクリックするまで作成されません。

**【削除】**：選択したレコードを削除します。

**【詳細】**：選択したレコードの詳細を表示します。

**【選択】**：リンクしているフィールドの右にある  ボタンをクリックすると、別のテーブルのレコードを選択してこのフィールドに値を入力できるようになります。クリックすると、レコードのリストを含む「選択ウィンドウ」が表示されます。レコードを選択した後 **【選択】** をクリックしてリンクを確定するか、または **【キャンセル】** をクリックします。  ボタンは、**【編集/オプション】** メニューの **【ナビゲーション】** 項目の **【選択ウィンドウ】** オプションが選択されている場合のみ表示されます。

：メインリストの各列用の計算を実行します。

**【閉じる】**：ウィンドウを閉じます。

## 階層構造

AssetCenterの特定のテーブルは、階層構造になっています。各レコードにはサブレコードを、さらにサブレコードには独自のサブレコードを作成できます。ツリー構造内の階層レベルの数には制限がありません。

例

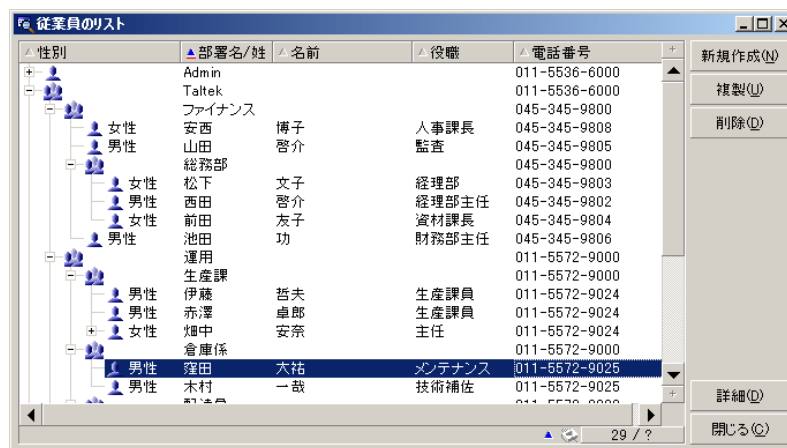
- 場所のテーブルでは、場所Aは、別の場所Bの「従属場所」になっている可能性があります。
- 資産のテーブルでは、ある資産は別の資産の「コンポーネント」になっている可能性があります。

- 部署と従業員のテーブルでは、「アジア地域営業部」には、「マーケティング」という従属部署が存在する可能性があります。この場合、「アジア地域営業部」は、「マーケティング」の「親」または「親部署」です。つまり、下の図に示すような「アジア地域営業部」\*「マーケティング」という階層構造になります。

## 表示モード

階層構造のあるテーブルのレコード（モデル、場所、部署と従業員など）はリスト形式とツリー構造の2つの方法で表示できます。

図 2.1. 従業員のテーブル - ツリー構造





表示モードは次の方法で選択できます。

- メインリストの場合は、[ **ウィンドウ/ツリー構造で表示** ]または[ **ウィンドウ/リスト形式で表示** ]メニューを選択します。
- メインリストまたは詳細画面内のリストの場合は、ポップアップメニュー（リスト内でマウスの右ボタンをクリックすると表示されます）から[ **ツリー構造で表示** ]および[ **リスト形式で表示** ]を選択します。

ツリー構造で表示している場合は、ツリーの ⊕ ボタンを使って下のレベルを表示したり、⊖ ボタンを使って下のレベルを非表示にしたりすることができます。

また、マウスの右ボタンでリストをクリックすると、[ **階層の表示** ]オプションが表示されます。このオプションでは、表示する階層レベルを「1」、「2」、「3」、または「全レベル」の中から選択できます。リストのウィンドウを閉じるとこの設定内容は失われます。

表示モード用のボタンとショートカットキーは、次の通りです。

- リスト形式で表示： [ Ctrl+L ] キー
- ツリー構造で表示： [ Ctrl+T ] キー

#### 重要項目:

テーブルをツリー構造で表示するには、**【フルネーム】**（SQL名：FullName）フィールドと**【階層レベル】**（SQL名：sLvl）フィールドの読取り権限が必要です。

## テーブルの階層構造を変更する

- 1 階層構造のテーブルを表示します。
- 2 **【ウィンドウ/ツリー構造で表示】**メニューを使って、リストをツリー構造で表示します。
- 3 リストを読みやすくする場合は、**【ウィンドウ/リストのみ】**メニューを使って、リストを「リストのみ」モードで表示できます。
- 4 必要に応じて、次のいずれかの方法でツリーを展開します。
  - 階層のノードをクリックします。
  - ポップアップメニューの**【階層の表示】**コマンドを使います。
- 5 移動するツリーの分岐点にあるレコードをクリックします。
- 6 このレコードを移動先の分岐点にあるレコードにドラッグします。
- 7 レコードのすべてのサブレコードが同時に移され、ツリー構造が保持されます。

または

- 1 テーブルを「リストと詳細」モードで表示します（**【ウィンドウ/リストと詳細】**メニューから選択します）。
- 2 移動するレコードを同一の親レコードから選択します。
- 3 親レコードを指定するフィールドを変更して、新しい親を選択します。
- 4 **【変更】**をクリックします。

## リスト表示のパラメータ

AssetCenterでは、次の方法でレコードリストの表示を設定できます。

- 表示タイプ：「ツリー構造で表示」または「リスト形式で表示」
- 表示モード：「詳細のみ」、「リストのみ」、または「リストと詳細」
- リストの列見出しボタンを使ったリストの並べ替え
- リストの設定（**【リストの設定】**ポップアップメニュー）：
  - 列で表示するフィールドの選択
  - 並べ替え



- フィルタ
- フィルタの適用
- ウィンドウサイズ

これらの設定は、ウィンドウを閉じるときに保存されます。リストのデフォルトの表示方法に戻すには、[ Shift ] キーを押したままにして、ツールバーのアイコンでテーブルを開きます。

## 統計の表示

AssetCenterでは、列またはフィールドに関する統計をグラフ化して表示することができます。

次の手順に従います。

- 1 希望する列またはフィールド内にマウスカーソルを置きます。
- 2 右クリックします。
- 3 ポップアップメニューから [ この列に関する統計 ]、[ このフィールドに関する統計 ] または [ このリンクに関する統計 ] を選択します。
- 4 別の画面に、統計が表示されます。
- 5 グラフのある項目の棒線上をダブルクリックすると、その項目のレコードが表示されます。

### 注意:

この統計は、AssetCenterにより検出される最初の10件の値のみに限られています。残りの値は [ その他の値 ] に含まれます。

## 統計グラフの表示オプション



グラフの表示方法を変更することができます。

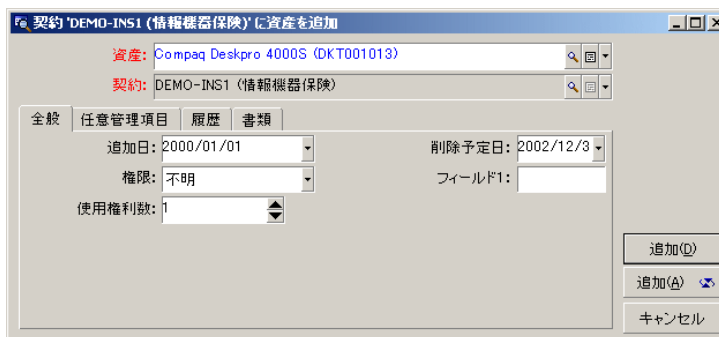
グラフの表示方法を変更するには、マウスの右ボタンをクリックして、状況依存メニューから希望するオプションを選択します。

- グラフの種類
  - 縦棒
  - 横棒
  - 折れ線
  - 円
- 表示モード
  - 3D表示
  - 重ねて表示

グラフの凡例や背景を表示することも可能です。

## メインリストを設定する

同じテーブルのリストを、異なる構成で表示することができます。例えば、契約の【資産】タブで  をクリックし、次に資産を契約に使う時に使うウィンドウで  をクリックします。

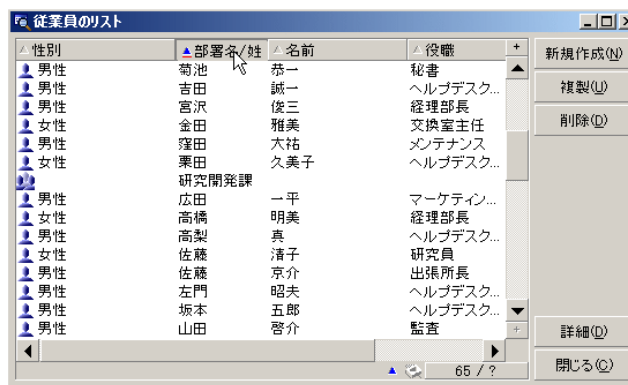




契約の詳細画面の【資産】タブページに表示されるこの資産リストを、【ポートフォリオ/資産とロット】メニューを使って表示するリストと異なる構成にすることができます。



## リストを簡単に並べ替える


メインリストの列見出しにはフィールド名の付いたボタンがあります。このボタンを使うと、その見出しの項目でリストをアルファベット順でソートできます。

図 2.2. 従業員のテーブル - リストの並べ替えツール



 をクリックしてその列の項目でリストを昇順で並べ替えます。 を2回目にクリックすると降順で並べ替えられます。直接降順で並べ替えるには、[ Shift ] キーを押しながらこのボタンをクリックします。

並べ替えの昇順と降順を切り替えるには、 と  のボタンをクリックします。

 の赤い線は、インデックス付きで並べ替えられることを示しています。インデックスが付いている方がより速く並べ替えできます。

## リストに列を簡単に追加する

詳細画面からリストに列を追加できます。列として表示するオブジェクト（フィールドまたはリンク）をマウスの右ボタンでクリックし、表示されるポップアップメニューから [ この列をリストを追加 ] を選択します。

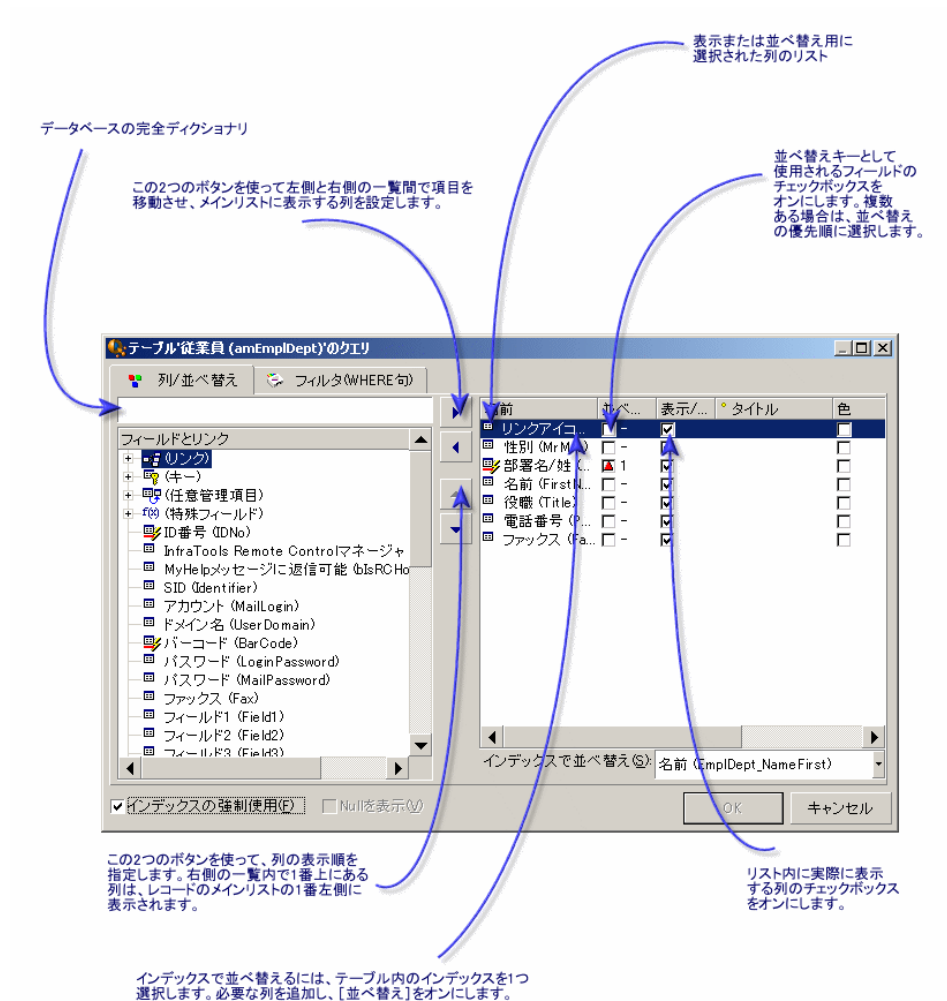
## リストの列の幅を調節する

リストがアクティブな時に [ F9 ] キーを押すと、列幅が各列に配分されます。列の右端をダブルクリックすると、その列のレコードのすべての値が完全に表示されるように、サイズが自動的に調節されます。この操作のショートカットキーは [ Ctrl+F9 ] キーです。

## [ リストの設定 ] ポップアップメニューを使う



[ 列 / 並べ替え ] タブでは、複数の並べ替えキーを定義できます。









図 2.3. リストの表示方法の設定



## 左側の一覧

[列/並べ替え] タブには、並べ替えまたは表示に使用できる現在のテーブルのすべての要素が、ツリー構造で表示されます。様々な項目を識別するために次のアイコンが使われています。

-  フィールドを示します。
-  インデックス付きフィールドを示します。

-  金額値を示します。
-  と  リンクを示します。
-  任意管理項目を示します。
-  特殊フィールドを示します。
-  キーを示します。
-  コメントへのリンクを示します。
-  画像へのリンクを示します。

矢印のボタンを使用する代わりに、左側の一覧ウィンドウで項目をダブルクリックすると、その項目が右側の列一覧に追加されます。【OK】をクリックするとメインリストに列が追加されます。右側の一覧ウィンドウで項目をダブルクリックすると、その項目が列一覧から削除されます。

リストの上にあるフィールドにSQL名を記入すると、データベースディクショナリ内の要素を入力できます。このボックスに何文字か入力すると、AssetCenterが自動的に残りの文字を入力します。

## 右側の一覧

リストの並べ替えに使う、または表示する列項目の一覧です。

### 並べ替え

【並べ替え】の列のチェックボックスをオンにすると、値が並べ替えられます。赤い上向きの三角形は昇順の並べ替えを意味し、緑の下向きの三角形は降順の並べ替えを意味します。3回クリックすると、並べ替えがキャンセルされます。チェックボックスをオンにした順番で、並べ替えが実行されます。

並べ替えキーとしてインデックス付きのフィールドを使用すると、【インデックスで並べ替え】フィールドに名前が自動的に表示されます。

#### 注意:

実際にリストを並べ替えるには、単純に列見出しをクリックします。【Shift】キーを押したまま列見出しをクリックすると、降順で並べ替えできます。

### 表示 / 非表示

リストに列を表示するかどうかを指定できます。

例えば、「資産タグ」で並べ替えを実行するけれども、レコードリストには表示しない、または印刷しない場合は、非表示に設定することができます。

### タイトル

この列を使うと、リストのデフォルトの列見出しを希望のタイトルに置き換えることができます。

## 色

この列では、リスト内のテキスト行をどのフィールドの色で表示するかを選択できます。

テーブル内の特定のフィールド、特殊フィールド、任意管理項目など、複数のタイプのフィールドから選択できます。

色のフォーマットはRGBです。色のRGB値が分からない場合は、AmRgbColor() BASIC関数を使うと、使用する色の正しい値が割り出されます。

例

3ヶ月以内に終了する契約を表示するとします。

この場合は、次のように設定します。

- 1 特殊フィールドを作成します（【ツール/管理/特殊フィールド】メニューと次のパラメータを使います）。

表 2.1. 特殊フィールド - 列の色

フィールド	値
【テーブル】（SQL名：TableName）	【契約】（SQL名：amContract）
【フィールドタイプ】（SQL名：seType）	【BASICスクリプト】
【結果のデータ型】（SQL名：seDataType）	【数値】
【計算スクリプト】（SQL名：memScript）	If amDateDiff([dEnd],amDate()) < 7776000. Then RetVal = AmRgbColor( "RED" ) Else RetVal = AmRgbColor( "BLACK" )End If

- 2 【契約/契約】メニューを使って、契約のリストを表示します。
- 3 ポップアップメニューの【リストの設定】コマンドを使って、リストを設定します。
- 4 表示する列の一覧に、作成した特殊フィールドを追加します。
- 5 【色】列で、追加したフィールドのチェックボックスをオンにします。
- 6 【OK】をクリックしてこの設定を確認します。
- 7 【終了】（SQL名：dEnd）フィールドの値が3ヶ月以内の契約とそれ以降の3ヶ月の契約と比較して、この設定をテストします。

## データ型

右側の一覧のこの列は、テキスト、数値、日付など、フィールドのデータ型を示します。実際のリストの並べ替えに使われたり、表示されることはありません。


## インデックスで並べ替え

**【インデックスで並べ替え】**フィールドでインデックスを選択すると、上の一覧の**【並べ替え】**列のチェックボックスで選択しなくても、一覧に並べ替えキーとして追加されます。

インデックスを並べ替えキーとして選択すると、必要な列が一覧に追加され、一覧で既に選択されている並べ替えキーの選択は解除されます。インデックスによっては、複数の列が一覧に追加される場合があります。

リストをインデックスで並べ替えると、速く処理できます。

## ドロップダウンリストを設定する

ドロップダウンリスト（コンボボックス）は、詳細画面の特定のフィールドの右側に表示される  をクリックすると表示されるリストです。

**【編集/オプション】**メニューの**【ナビゲーション】**項目の、**【ドロップダウンリストをツリー構造で表示】**オプションで「はい」を選択すると、ドロップダウンリストは階層構造で表示されます。

- リストとして表示する場合の並び順は、ドロップダウンリストがアクセスしているテーブルの設定によって決まります。この設定は、AssetCenter Database Administratorの**【特殊文字列】**フィールドで行います。
- 階層表示の並び順は、**【完全名】**（SQL名：FullName）フィールドを基準にします。

## リスト内でレコードを検索する

探している値を含むフィールドのリストを並べ替えると、次の手順に従って目的の項目を検索できます。

- 1 リスト領域内でマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
- 2 **【ジャンプ】**メニューをクリックし、検索する値の最初の数文字を入力します。残りの文字は、AssetCenterがデータベース内から最も近い値を探し出して自動的に入力します。
- 3 正しい値が入力されたら、**【ジャンプ】**ボタンをクリックします。キーボードで入力した値以上の値を持つリストの対応する項目上に、カーソルが移動します。



注意:

[ジャンプ] コマンドのショートカットキーは [ Ctrl+G ] です。

## その他のレコード検索方法

- フィルタ：定義した検索基準（フィルタ）で検索し、その基準に一致するレコードのリストを表示できます。
- ビュー：フィルタとパラメータを組み合わせて検索し、レコードのリストを表示します。

## リスト内でレコードを操作する

### リスト内のレコードを選択する

リスト内のレコードを選択すると、レコードが強調表示されます。デフォルトでは、最初のレコードが選択されています。矢印キーでカーソルを移動するか、項目そのものをマウスでクリックして、別のレコードを選択できます。[ Ctrl ] キーまたは [ Shift ] キーを押しながらマウスをクリックすると、複数の項目を選択できます。

### リスト内のすべてのレコードを選択する

リストを開いたら、[ 編集 / すべて選択 ] メニューを使ってリスト内のすべてのレコードを選択します。

### ツリー構造のリストでレコードを移動する

ツリー構造のリストでは、レコードをマウスでドラッグ&ドロップするだけで、ツリー内の別の位置に簡単に移動できます。項目をクリックして、マウスボタンを押したままカーソルを新しい位置に移動し、マウスボタンを放します。

この操作は、場所の [ 親所在地 ]（SQL名：Parent）フィールドや資産の [ 親資産 ]（SQL名：Parent）フィールドを変更するのと同じです。

### フロアプランにオブジェクトを追加する

フロアプランを定義するとき（ [ ポートフォリオ - /フロアプラン ] メニュー）、別のリストのレコード（資産、従業員など）をドラッグ&ドロップして追加することができます。

リストでレコードを選択するか、または詳細画面にアイコンがある場合はそのアイコンを選択し、ドラッグ&ドロップします。



オブジェクトが、アイコンおよびテキストと一緒にフロアプランに追加されません。

フロアプランで要素を移動させるには、マウスを使います。

フロアプランに関する詳細は、マニュアル『**主要テーブル**』の「**フロアプラン**」の章を参照してください。

## リストを出力する

出力するリストを選択すると、フィルタで検索した場合はフィルタがかけられてからリストが出力されます。つまり、出力されるのは画面上に表示されているのと同じ列項目です。

カーソルが出力するメインリストまたはタブページのリスト内にあることを確認してください。例えば契約の画面上で、特定の契約でカバーされている資産を出力する場合に、カーソルが契約リストにあると、契約のリストが出力されます。

リストまたは詳細画面内のリストを出力するには、リスト部分で右クリックし、**[リストの出力]**メニューを選択します。

- 1 ダイアログボックスの**[ファイル]**フィールドに、出力するデータを書き込むテキストファイルの名前、拡張子、およびパスを入力します。

出力するテーブルの名前を出力ファイルの上部に表示する場合は、**[テーブル名の出力]**オプションを選択します。

重要：出力ファイルをMicrosoft Accessで使う場合は、テーブル名を出力しないようにしてください。

- 2 出力するリストの列見出しを出力ファイルの上部に表示する場合は、**[列見出しの出力]**オプションを選択します。
- 3 出力するレコードの識別番号である、テーブルの**[ID]**フィールド（資産とロットの場合は**[IAstId]**フィールド）を出力する場合は、**[ID番号の出力]**オプションを選択します。
- 4 **[区切り文字]**ドロップダウンリストの「.」「,」「;」「タブ」から、出力されたリストのフィールドを区切る文字を選択します。
- 5 **[出力]**をクリックします。



### 警告:

多量のデータをインポートする前に、データベースを保存することをお勧めします。**[リストの出力]**ポップアップメニューは、すべてのAssetCenterユーザがアクティブなリストを出力できるように設計されています。AssetCenter Exportでは非常に複雑な出力手順を実行できませんが、これを実行できるのはAssetCenterの管理者だけです。詳細に関しては、『**AssetCenterの高度な使い方**』を参照してください。

## レコードの詳細情報

ここでは、AssetCenterのレコードの詳細画面にアクセスして、レコードの詳細情報を表示する方法について説明します。

内容は次の通りです。

- レコードの詳細画面にアクセスする
- リストと詳細の組合せ表示
- ウィンドウのサイズを変更する
- 詳細画面の主要ボタン
- タブページ
- ユーザ定義フィールド

### レコードの詳細画面にアクセスする

レコードリストを表示したら、希望の項目を選択してその項目をダブルクリックするか、**[詳細]** ボタンをクリックして、選択しているレコードに関するすべての情報を表示します。情報は内容に応じてタブで分類されています。

情報は、各タブ内でフィールドまたはリストとして表示されます。リストには、好きなだけ項目を追加できます。例えば、資産の任意管理項目などを追加できます。

### リストと詳細の組合せ表示

AssetCenterでは、選択した分野の情報を、リストのみ、詳細のみの画面で表示したり、リストと詳細の両方を同時に表示したりすることができます。

表示モードを切り替えるには、**[ウィンドウ/リストのみ]**、**[ウィンドウ/詳細のみ]**、または**[ウィンドウ/リストと詳細]**メニューを選択します。

図 2.4. 「リストと詳細」モードでの表示



表示モードには、次のショートカットキーが割り当てられています。

- リストのみ：[ F6 ] キー
- 詳細のみ：[ F7 ] キー
- リストと詳細：[ F8 ] キー

#### 注意:

「リストと詳細」モードでは、リストを横長モード（リストが詳細画面の上に表示されます）または縦長モード（リストが詳細画面の左側に表示されます）のどちらかで表示できます。2つのモードを切り替えるには、画面右側の空白部分（[ 新規作成 ]、[ 複製 ]、および [ 削除 ] ボタンの下の領域）をマウスの右ボタンでクリックし、[ 横長に切り替え ] または [ 縦長に切り替え ] を選択します。またはリストと詳細画面の境界線上をダブルクリックします。

## ウィンドウのサイズを変更する

AssetCenterでは、ウィンドウのサイズを変更できます。

マウスを、ウィンドウの境界または角に置きます。ポインタの形状が変化したら、ウィンドウの境界または角をクリックしてドラッグし、ウィンドウのサイズを変更します。



リストと詳細領域のサイズを変更するには、

- 1 ポインタを、リスト領域と詳細領域を分離する境界線上に置きます（ポインタの形状が変化します）。
- 2 マウスをクリックし、マウスボタンを押しながら、境界線を希望の位置までドラッグします。
- 3 マウスボタンを放します。

## 詳細画面の主要ボタン

**【変更】**：詳細画面で加えた変更を保存します。


**【作成】**：詳細画面の情報を新規レコードとして保存します。



 詳細画面の情報を新規レコードとして保存し、フィールドを初期化して、現在の特定のデータ項目に基づいて新規データを入力できるようにします。新規レコードを作成しても、 ボタンをクリックするまでレコードは有効になりません。または**【作成】**をクリックすると連続作成を終了できます。このボタンは、同様の情報を持つレコードを連続して作成する際に便利です。

**【キャンセル】**：

- レコードを作成している場合は、レコードの作成を取り消します。
- レコードを変更している場合は、加えた変更を取り消し元の値に戻します。


 選択した項目の詳細を表示します。

 リンクしているレコードを選択できる「選択リスト」を表示します。このボタンの表示/非表示は、**【編集/オプション】**メニューの**【ナビゲーション】**項目の**【選択ウィンドウ】**オプションで設定できます。表示されるリストは、リンクしているレコードの標準リストです。このリストのタイトルは、その内容によって変わります。例えば、資産 'bbb' のユーザを選択した場合は、部署および従業員のリストが表示されますが、ウィンドウのタイトルバーには、「従業員のリスト」ではなく「資産 'bbb' のユーザ」というタイトルが表示されません。

 リンクしているレコードを選択できるドロップダウンリストを表示します。リストに表示される値のタイプは、どのフィールドを使用しているかに応じて変化します。標準のメインリストを表示する  ボタンと異なり、ドロップダウンリストで表示されるリストは、項目が1つだけのリストです。

 左側のタブを表示します。

 右側のタブを表示します。

 詳細画面のリストにレコードを追加します。例えば、ある資産に関連する契約のリストの場合は、資産の詳細画面の**【契約】**タブページにあります。

- タブページ内のリストからレコードを削除します。
- 🔗 ボタンの左側にあるフィールドにアラームを設定します。

## タブページ

AssetCenterでは、データベースレコードの情報は「詳細画面」に表示されます。「タブ」を選択すると表示される各タブページに、情報がタイプ別に分類されています。

詳細画面には複数のタブページがあり、タブページにサブタブページが含まれることもあります。サブタブの名前は、サブタブのページ内のフィールドで定義します。

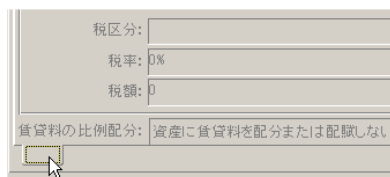
サブタブを追加、複製、または削除するには、サブタブ上にカーソルを置き、右クリックしてポップアップメニューを表示し、[リンクレコードの追加]、[リンクレコードの複製]または[リンクの削除]を選択します。

以下の条件が満たされている場合、タブは灰色になります。

- タブは、選択したレコードへの複数リンクを表している。
- これらの複数リンクが作成されていない。

1番目のリンクを追加すると、自動的にタブが有効になります。このリンクを追加するには、

- 1 未使用のタブを選択します。



- 2 右クリックします。
- 3 [リンクレコードの追加]をポップアップメニューから選択します。
- 4 リンクに値を入力します。
- 5 [変更]をクリックします。

## ユーザ定義フィールド

AssetCenterには、組織固有の情報を追加できるユーザ定義フィールドがあります。これらのフィールドは詳細画面にあります。デフォルトのフィールド名は「フィールドx」で、xは数字です。

管理者は、データベースのカスタマイズ機能（**[オブジェクトの設定]**ポップアップメニュー）を使って、フィールドの名前とプロパティを変更できます。

 **重要項目:**

名前やプロパティを変更する際は、タブ内の各フィールドが同一の論理に従うように設定することをお勧めします。

## レコードの処理

ここでは、AssetCenterでレコードを作成および変更する方法について説明します。

内容は次の通りです。

- レコードを作成する
- レコードを変更する
- 複数のレコードを変更する
- 複数のユーザがレコードを変更する
- レコードを複製する
- レコードを削除する

## レコードを作成する

新規レコードを作成するには、まずレコードを追加する先のリストを表示します。

**[新規作成]** ボタンをクリックすると空白のウィンドウからレコードを作成できます。**[複製]** ボタンをクリックすると、リスト内で選択しているレコードを複製できます。

作成するレコードの情報を、次の方法で入力します。

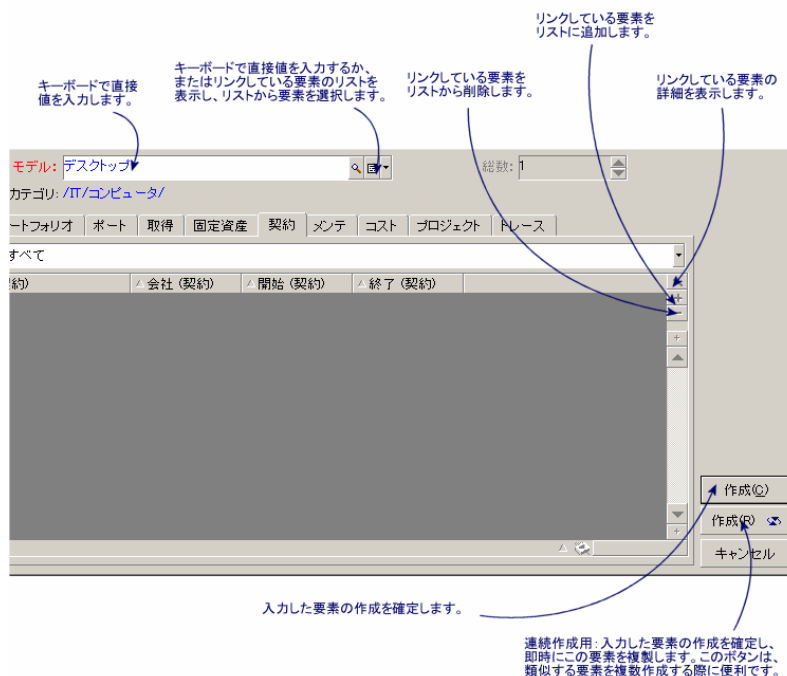
- 最初の数文字を入力すると、データベースにこれらの文字で始まるレコードが存在する場合は、残りの文字が自動的に入力されます。入力する値がリストにない場合は、リンク先のテーブルに新しいレコードを作成するためのオプションが表示されます。
  - **仮作成**：リンク先のテーブルに新規レコードが作成されますが、詳細は表示されません。後で残りの情報を入力できます。  
このオプションを無効にすることも可能です（**[オプション/仮作成の許可]**メニュー）。
  - **詳細設定**：作成する新規レコードの詳細画面が表示されます。その場で新規レコードに関する情報を入力できます。

- レコードを初めて作成するときは、特定のフィールドにデフォルトの値が割り当てられますが、これらの値は変更可能です。デフォルト値が、作成しているレコードの詳細の他のフィールド（資産のモデルなど）を参照している場合は、参照先のフィールドに挿入される値に応じてデフォルト値が自動的に入力されます。これらのフィールドを定義する計算式は、レコードを初めて作成するときのみ適用され、レコードの変更時には適用されません。

### 注意:

AssetCenterウィンドウには複数のフィールドが表示されます。赤色の必須フィールドだけは必ず入力し、他のフィールドは必要に応じて入力してください。管理者は、**[オブジェクトの設定]**ポップアップメニューまたはAssetCenter Database Administratorを使って簡単に必須フィールドを定義できます。

図 2.5. レコードの作成



### レコードの作成

## レコードを変更する

詳細画面を使って、データベースの各レコードの情報を変更できます（リストで直接レコードを変更することはできません）。詳細画面では次の2種類の情報を変更できます。

- フィールド内の値を直接変更する。
- リンク情報を変更する。
  - フィールドの右側にある ▾ アイコン（ドロップダウンリスト）または ◻ アイコン（選択ウィンドウ）をクリックし、表示されるリストから別の値を選択する。  
フィールドに別の値を入力する。
  - フィールドの右側にある ⓘ ボタンを使ってリンク項目の詳細画面を表示し、情報を変更する（例：サプライヤの電話番号などを変更する）。

レコードの詳細画面に表示される情報の多くは、他のテーブルからの情報です。他のテーブルと関連付けるため、プログラムは異なるテーブルのレコード同士をリンクします。あるレコードの情報を変更すると、そのレコードにリンクされているすべてのレコードも変更されます。この原理で動作するデータベースを「リレーショナルデータベース」と呼びます。この方法を使うと、データベース内の重複情報を最小限に抑えることができるため、情報の変更に要する時間が短縮され、ディスク容量も節約できます。

フィールドの値を変更すると、新しい値が別の色で表示され、新しい値を確定する [ 変更 ] ボタンとこれらの変更を取り消すための [ キャンセル ] ボタンが表示されます。

## 複数のレコードを変更する

選択している複数のレコードの情報を同時に変更することもできます。まず希望するリストを「リストと詳細」モードで表示し、変更するレコードを同時選択します。

この変更方法は、各フィールドに共通の値を入力して変更する場合のみ可能です。

リストを「リストと詳細」モードで表示し、リストから変更するレコードを複数同時に選択します。

詳細画面には次のフィールドが表示されます。

- 同じ値を含むフィールド：白い背景
- 異なる値を含むフィールド：灰色の背景

白い背景のフィールドの値を変更することができます。



**注意:**

もう1つの方法は複雑ですがとても便利です。レコードを出力してAssetCenter外で変更してから、AssetCenterにそのデータをインポートし直します。詳細は「レコードリスト」節の「リストを出力する」を参照してください。

## 複数のユーザがレコードを変更する

AssetCenterでは、複数のユーザがデータベースに同時にアクセスできるため、2人のユーザが同じレコードを同時に編集、変更した場合に、レコードがどのように処理されるかを理解することが重要です。

AssetCenterの1人のユーザがデータベースを使っている間に、他のユーザが詳細情報を変更したり、新規レコードの追加やレコードの削除を行うことがあります。画面を再表示すると変更事項が表示されます。

しかし、リストまたは詳細画面を表示した後に他のユーザが変更事項を加えると、表示情報は【F5】キーを使用するか、または【**ウィンドウ/更新**】メニューを選択しないと更新されません。

フィルタを適用したり、リストの並べ替えや、ツリー表示とリスト表示の切り替えを行うと、リストは自動的に更新されます。また別のレコードの詳細画面を表示する場合も情報が更新されます。

AssetCenterでは次のような規則が適用されます。

- 複数のユーザは同じレコードを通常どおり編集でき、エラーメッセージも表示されません。
- ユーザが【**変更**】ボタンをクリックすると、各フィールドが個別に調べられ、画面上の値とデータベースに格納されている値が比較されます。
  - データベースの値と画面上の値が同じ場合は、そのままです。
  - データベースの値と画面上の値が異なる場合は、画面上の値がデータベースに保存されます。
- 2人のユーザが同じレコードの同じフィールドを変更した場合は、最後に変更を確定したユーザのコンピュータに警告メッセージが表示されます。最後に【**変更**】をクリックした人の変更が適用されます。
- 【**変更**】をクリックすると、プログラムは次のように変更を処理します。数分の1秒間レコードがロックされ、プログラムが情報をデータベースに書き込む時間が確保されます。レコードのロック中は、他のユーザはレコードを編集できませんが、レコードを読み取ることはできます。
- ユーザがレコードを編集し、その間にレコードが別のユーザによって削除された場合は、レコードを編集中のユーザが【**変更**】ボタンをクリックしたときに、エラーメッセージが表示されます。

- レコードカウンタについて：レコードカウンタの数字は、ユーザが【新規作成】ボタンを押すたびに増加します。作成を確定せずに取り消し、他のユーザも【新規作成】ボタンを使わなかった場合は、カウンタは元の値に戻ります。ユーザが【新規作成】ボタンを押した後に、レコードの作成が取り消されても、カウンタは減少しません（実際のレコード数と一致しなくなります）。2人のユーザが【作成】を同時にクリックすると、カウンタの数値が2増えます。

特定のテーブルの場合は、特別な方法で更新を行います。



データベースに次回接続する時、または【ツール/キャッシュの更新】メニュー（[Ctrl+F5]キー）を選択する時に更新されるキャッシュをオプションで定義できます。これらのキャッシュは接続の編集用画面で表示される接続キャッシュとは異なります。

## レコードを複製する

レコードを複製するには、次の2通りの方法があります。

### 【複製】ボタンを使う

レコードを複製するには、次の手順に従います。

- リストからレコードを選択します。
- 【複製】ボタンをクリックします。新規レコードが作成され、元のレコードから情報の一部がコピーされます。
- 【作成】または  ボタンを使って作成を確定する前に、複製したレコードの詳細を編集して、内容を確認します。 ボタンをクリックすることは、【作成】ボタンと【複製】ボタンを続けてクリックするのと同じ操作です。

### 【編集/複製】メニューを使う

レコードを複製するには、次の手順に従います。

- リストからレコードを選択します。
- 【編集/複製】メニューを選択します。
- 表示されるダイアログボックスで、コピー数を設定します。
- 【複製】ボタンをクリックして、複製を開始します。

【複製】ボタンをクリックした後で【作成】ボタンをクリックして、1つずつレコードを複製するのと同じ操作を、【編集/複製】メニューではまとめて1回で実行できます。

 **重要項目:**

**[編集/複製]**メニューを使用する前に、必須フィールドにデフォルト値を指定し、「複製不可能」なインデックス用の固有のデフォルト値を作成する必要があります。場合によっては、データベース内で固有でなければならない値を含むレコードは複製不可能であることを知らせるメッセージが表示されます。カウンタとして使用されるフィールドにデフォルト値を適用することも大切です。

AssetCenter Database Administratorの**[スクリプト]**タブページ内には、**[複製時にデフォルト値を再適用]**チェックボックスがあります。ここで、複製時にAssetCenterがレコードを処理する方法を指定できます。

- チェックボックスがオフの場合：ソース値がコピーされます。
- チェックボックスがオンの場合：デフォルト値が適用されます。

## レコードを削除する

削除するレコードを選択したら、**[削除]**ボタンをクリックして、リストからレコードを削除します。レコードが他のリストのレコードとリンクしていない場合は、レコードが削除されます。リンクしている場合は、エラーメッセージが表示されます。

 **注意:**

**[拡張削除の許可]**オプションをオンにすると（**[編集/オプション]**メニュー）、リンクしているレコードを削除できます。

 **警告:**

一旦削除したレコードを元に戻すことはできないため、削除する前に他のデータとの関連性をよく考慮する必要があります。データベース内に間違って作成したレコードか、インベントリから紛失した項目か、または在庫に加えられた要素かどうかなどを確認してください。削除するよりも、項目のステータスを変更したり、データベース内の別の場所に移動したりする方が良い場合もあります。

## フィールドに値を入力する

内容は次の通りです。

- フィールドにデフォルト値を入力する

- 切り取り
- コピー
- 貼り付け
- テキストを削除する
- 日付のデータ入力規則
- 期間の単位のデータ入力規則
- 時刻のデータ入力規則
- 「日付+時刻」フィールドのデータ入力規則
- 画像

## フィールドにデフォルト値を入力する

AssetCenterでは、レコードの作成時に特定のフィールドにデフォルト値を割り当てることができます。

どのフィールドに自動データ入力機能を適用するか、およびどの自動データ入力機能を使用するかは、AssetCenterの管理者が次のいずれかの方法で定義します。

- AssetCenter Database Administratorを使用する。
- 設定するフィールドに移動し、ポップアップメニューの【**オブジェクトの設定**】メニューを使用する。この場合は、次の時点で設定がデータベースに保存されます。
  - データベースとの接続を解除し、表示されるメッセージで設定を確認した場合。
  - 【**ツール / 管理 / データベース設定の保存**】メニューを選択した場合。

デフォルト値は、フィールド、変数、定数などを使う計算式から構成されることもあります。

## 特殊フィールドの場合

【**特殊文字列**】および【**BASICスクリプト**】タイプの特殊フィールドは、標準フィールドのデフォルト値の計算にのみ使用できます。

## 【コメント】テーブルへのリンクの場合

【**コメント**】テーブル（SQL名：amComment）へのリンクにはデフォルト値を割り当てられません。

## リンクしているレコードの場合

テーブルに新規レコードを作成する時、リンクしているテーブル内のレコードを選択して、新規レコードの特定のフィールドに値を入力しなければならない場合があります。

### 重要項目:

新規レコードを作成した後にリンクしているレコードのフィールドの値を変更しても、新規レコードのフィールドの値は変更されません。

**[作成]** ボタンをクリックした後で、新規レコードの詳細画面内にあるリンクしているレコードを選択しても、フィールドのデフォルト値は再計算されません。

管理者は、リンクしているレコードの情報を使って計算したデフォルト値を、テーブル内のフィールドに直接割り当てることができます。

これらのデフォルト値は、計算式に使う「リンクしているフィールド」に値を入力した時点で自動的に計算されます。

### 注意:

AssetCenter Serverによって多くのタスクが自動的に実行されます。これらの自動機能の優先順位が、フィールドのデフォルト値より高い場合があります。。

## 切り取り

AssetCenterの **[切り取り]** コマンドを使うと、次の操作を実行できます。

- テキストの切り取り
- 詳細画面内のリストのレコードの切り取り

## テキストを切り取る

テキストを切り取って、クリップボードに入れるには、切り取るテキストを選択し、**[編集/切り取り]** コマンドを使います。**[編集/貼り付け]** コマンドを使うと、クリップボード内のデータを元に戻すことができます。

### 注意:

このコマンドのショートカットキーは、**[Ctrl+X]** キーです。

## 詳細画面内のリストからレコードを切り取る

この機能は、詳細画面の特定のタブページに表示されるリストで使うことができます（例：リース資産のリスト、特定の場所にある資産のリストなど）。

詳細画面のリストからレコードを切り取って、クリップボードに入れるには、次の手順に従います。

- 1 切り取るレコードを選択します。
- 2 **[編集/切り取り]** コマンドを使います。
- 3 **[変更]** をクリックして、変更を保存します。

### 警告:

場合によっては、ターゲットレコードへのリンクだけが削除され、リンク先のレコードはそのまま残ることがあります（例：資産の詳細画面の**[契約]**タブページに表示される契約）。レコードそのものが削除されることもあります（例：資産の詳細画面の**[コスト]**タブページの経費明細）。

**[編集/貼り付け]** コマンドを使うと、クリップボード内のレコードを元に戻すことができます。

### 注意:

メインリスト内のレコードおよび画像に**[編集/切り取り]** コマンドを使うことはできません。

## コピー

AssetCenterの**[コピー]** コマンドを使うと、次の操作を実行できます。

- テキストをコピーする
- 詳細画面内のリストまたはメインリストからレコードをコピーする

## テキストをコピーする

クリップボードにテキストをコピーするには、テキストを選択してから、**[編集/コピー]** コマンドを使います。

### 注意:

このコマンドのショートカットキーは、**[Ctrl+C]** キーです。

## リストからレコードをコピーする

メインリストまたはタブページのリストからレコードをコピーするには、レコードを選択してから **[編集/コピー]** コマンドを使います。

コピー時は、列の順序が維持されます。

 **注意:**

画像に **[編集/コピー]** コマンドを使うことはできません。

## 貼り付け

AssetCenterの **[貼り付け]** コマンドを使うと、次の操作を実行できます。

- テキストの貼り付け
- 詳細画面内のリストへのレコードの貼り付け

 **注意:**

メインリスト内のレコードおよび画像に **[編集/貼り付け]** コマンドを使うことはできません。

## テキストを貼り付ける

クリップボードからテキストを貼り付けるには、**[編集/貼り付け]** コマンドを使います。テキストは、カーソルのある場所に貼り付けられます。

 **注意:**

このコマンドのショートカットキーは、**[Ctrl+V]** キーです。

## 詳細画面内のリストにレコードを貼り付ける

この機能は、詳細画面の特定のタブページに表示されるリストで使用できます（例：特定の場所にある資産のリストなど）。

クリップボード内のデータをタブページ内のリストに貼り付けるには、**[編集/貼り付け]** コマンドを選択してから、**[変更]** をクリックして変更を確定します。

## 詳細画面内のリストに貼り付ける前の注意事項

- ユーザは、コピーまたは切り取ったレコードのフィールドを、詳細画面のリストの列順に合わせて並べ替えることができません。そのため、貼り付け先

のリストの列構造に対応するように貼り付けるデータを調整しておくことが重要になります。例えば、カーソルを詳細画面のリストの1列目に置いてデータを貼り付けると、1列目のデータは詳細画面のリストの1列目に、2列目のデータは、詳細画面のリストの2列目にというように、カーソルの位置を起点にして順番に貼り付けられます。

- 詳細画面のリストの列のうち、データの貼り付け先となる最初の列にカーソルを置き、貼り付ける列数と、貼り付け先の列数（貼り付け開始列から右方向に数えた列数）が同じであることを確認してください。
- 詳細画面のリスト内のレコードを選択したままレコードを貼り付けると、選択しているレコードが貼り付けたレコードに置き換えられます。置き換えない場合は、貼り付ける前に、リスト内のデフォルトで選択されているレコードなどの選択を必ず解除してください（選択を解除するには、[Ctrl]キーを押しながらレコードをクリックします）。
- メインリストのテーブルと詳細画面リストのテーブルの各フィールドが直接リンクされている場合は、詳細画面のリストにデータを貼り付けることができます。反対に、両方のテーブルのフィールドが直接リンクされていない場合は、詳細画面のリストにデータを貼り付けることはできません。例えば、資産と書類のテーブルはリンクしているので、資産の【書類】タブにデータを貼り付けることができます。しかし、契約の【資産】タブにデータを貼り付けることはできません。これは、契約のテーブルと資産のテーブルの間に中間テーブル【契約上の資産】があるためです。

## テキストを削除する

テキストを削除するには、テキストを選択し、【編集/切り取り】コマンドを使います。クリップボードに切り取らずにテキストを削除するには、通常の削除キーを使います。

### 注意:

メインリスト内のレコードおよび画像に【編集/貼り付け】コマンドを使うことはできません。

## 日付のデータ入力規則

- Windowsのコントロールパネルを使って、日、月、および年の入力および表示順形式を定義します。日付を入力するときは、定義した順番に従います。
- 日、月、および年を系統的に入力する。
- 日、月、および年を区切るには、スラッシュ(/)、コロン(:)、セミコロン(;)、またはスペースのいずれか1つを区切り文字として使います。



- 1桁の年、日、または月の前に「0」を入力する必要はありません。
- 年は2桁または4桁で入力できます（例：1996または96）。00から49の数值は2000年から2049年になります。50から99の数值は1950年から1999年になります。
- 今日の日付を入力するには、[Ctrl+.] キーを押します。

## 期間の単位のデータ入力規則

AssetCenterでは、期間に次の単位を使います。

- 秒：秒|s|sec|secs
- 分：分|mn|min|mins
- 時間：時間|h|hr|hrs
- 日：日|d|day|days
- ヶ月：ヶ月|m|month|months
- 年：年|y|year|years

単位と値の間にスペースを入れる必要はありません。

単位を入力する必要はありません。この場合、デフォルトの単位が適用されます。例えば、作業指示に使われるデフォルトの単位は時間です（作業指示の詳細画面の【トラッキング】タブにある【スケジュール】サブタブの時間フィールド）。

使用が許可される単位は内容によって異なります。許可されていない単位で値を入力すると、許可されている単位に変換されます。例えば、作業指示の詳細画面の【トラッキング】タブにある【スケジュール】サブタブの時間フィールドでは、時間または分しか表示されません。「1ヶ月」と入力すると、「720時間」に置き換えられます。

### 注意:

「期間」タイプのすべてのフィールドは、秒単位で保存されます。

期間の変換は、1年を12ヶ月、1ヶ月を30日（したがって1年=360日）と見なして計算します。

## 時刻のデータ入力規則

時、分、および秒を使うことができます。

それぞれをコロン（:）で区切ります。

## 「日付+時刻」フィールドのデータ入力規則

これらのフィールドは【日付】フィールドとは別に処理されます。

【日付+時刻】フィールドの入力形式は次のとおりです。

```
Date[<Sep>[Time]]
```

Sepは、区切り文字です（ピリオド（.）、スラッシュ（/）、セミコロン（;）、カンマ（,）、コロン（:）、ハイフン（-）のいずれか）。

Dateは日付を表す文字列で、シンタックスは次のとおりです。

```
xx<Sep>yy<Sep>zz
```

xx、yy、およびzzは、整数を表す文字列です。

Timeは時刻を表す文字列で、シンタックスは次のとおりです。

```
heure[<Sep>[minute[<Sep>[seconde[<Sep>[milliseconde[<Sep>]]]]]]]
```

hour、minute、second、millisecondは、整数を表す文字列です。

次の規則が適用されます。

- 月、日、および年の入力順序は、Windowsのコントロールパネルを使って定義する。日付を入力するときは、この順序に従います。
- 日、月、および年を系統的に入力する。
- 1桁の年、日、または月の前に「0」を入力する必要はありません。
- 年は2桁または4桁で入力できます（例：1996または96）。00から49の数値は2000年から2049年になります。50から99の数値は1950年から1999年になります。
- 今日の日付を入力するには、[Ctrl + .] キーを押す。

## 画像

AssetCenterでは、次の3種類の形式の画像をレコードに添付できます。

- 16色または256色のビットマップファイル（ファイル拡張子は.bmp）。素早く表示できるのが特長です。
- Windowsメタファイル（ファイル拡張子は.mtf）。ベクトル形式の画像で、表示に多少時間がかかりますが、サイズを変更しても画質が劣化しないのが特長です。
- アイコン（ファイル拡張子は.ico）

## 推奨する画像の詳細

- 【写真】タブでは、3種類のどの形式の画像でも使用できます。

- レコードの種類を示すための小さな画像（レコードの詳細画面の左上にある小さな四角い画像）の最大サイズは、16×16ピクセルまでです。これらの画像には、「.bmp」形式の画像を使うようにしてください。
- ディスク容量を節約するため、16色の画像を使うようにしてください。

## レコードに画像を関連付ける

レコードに画像を添付するには、次のいずれかの操作を行います。

- 詳細画面の左上にある画像の挿入領域をダブルクリックします。画像ファイルを選択できるダイアログボックスが表示されます。
- 画像の挿入領域でマウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから **[ 画像の選択 ]** を選択します。

添付した画像を削除するには、画像上でマウスの右ボタンをクリックしてポップアップメニューを表示し、 **[ 画像の削除 ]** を選択します。

## 画像を保存する

添付した画像は、AssetCenterデータベースの **[ 画像 ]** テーブル（SQL名：amImage）に保存されます。

画像は添付した時点でAssetCenter専用の形式に変換され、バイナリオブジェクトの形に圧縮されます。

---

### 注意:

注：後で画像を編集する予定がない限り、添付する前の元の画像ファイルをディスクに保存しておく必要はありません。

---



# 3 ユーザのコンピュータで AssetCenterをカスタマイズする

本章では作業環境をカスタマイズする方法を説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- 必要な機能のみ選択する
- 画面上での情報の表示方法をカスタマイズする
- 適切なインターフェイスを使用するオプションを定義する

すべてのユーザが、使用しているコンピュータ上で個々にAssetCenterをカスタマイズできます。これらの変更は、他のユーザのコンピュータ上のAssetCenterには影響しません。

デフォルトの画面設定に戻す場合は、[ツール/画面の最初期化]メニューを選択すると、カスタマイズのオプションをセッション中にキャンセルできます。

## モジュールを起動する

AssetCenterでは、必要な機能のモジュールだけを選択して、ユーザインターフェイスを簡略化することができます。

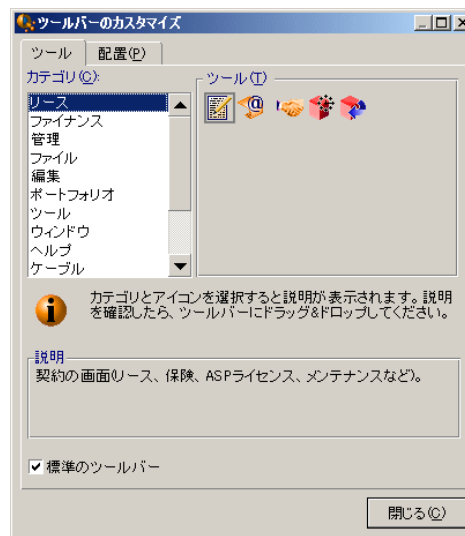
クライアントの各コンピュータでモジュールを個々に起動するには、[ファイル/モジュールの起動]メニューを選択します。

## ツールバーをカスタマイズする

ここでは、AssetCenterのツールバーのカスタマイズ方法について説明します。

### ツールバーにアイコンを追加する

- 1 【ツール/ツールバーのカスタマイズ】メニューを選択します。



- 2 追加するアイコンを含んでいる「カテゴリ」を選択します。  
【ツール】枠内にはそのカテゴリに属するすべてのボタンが表示されます。  
【説明】枠には、選択したアイコンの説明が表示されます。
- 3 【ツール】枠でアイコンを選択し、ツールバーの希望の位置までドラッグします。  
ツールバーにアイコンが挿入され、それに応じてツールバーのサイズも変更されます。

### ツールバーからアイコンを削除する

アイコンを選択し、ツールバーの外にドラッグします。それに応じてツールバーのサイズも変更されます。

## ツールバー内のアイコンの位置を変更する

アイコンを選択し、ツールバーの別の位置までドラッグします。ツールバーが変更され、サイズも変更されます。

## ツールバーに境界線を追加する

境界線を追加したい位置の左隣にあるアイコンを選択します。次に、アイコンをアイコンの右半分程度（縦長のツールバーの場合は下半分）ドラッグします。アイコンの前に境界線が追加され、必要に応じてツールバーのサイズも変更されます。

---

 **注意:**

1本の境界線は2つのボタン間に挿入されます。

---

## ツールバーから境界線を削除する

境界線の左隣のアイコンを選択し、境界線の上にドラッグします。ツールバーから境界線が削除され、必要に応じてツールバーのサイズも変更されます。

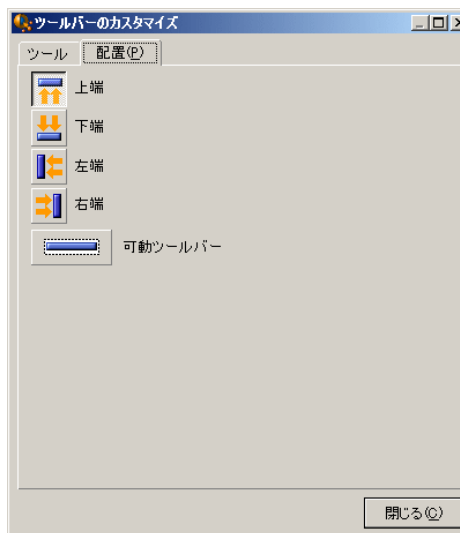
## ツールバーをデフォルト設定に戻す

AssetCenterには、標準ツールバー設定があり、この設定は [標準のツールバー] チェックボックスをオンにすると選択できます。

チェックボックスをオフにすると、カスタマイズ設定のツールバーが表示されます。

## ツールバーの位置を変更する

AssetCenter画面のどこにツールバーを配置するかは、[ **ツールバーのカスタマイズ** ] ウィンドウの [ **配置** ] タブを使って変更できます。



ボタンをクリックしてツールバーの位置を変更します。[ **可動ツールバー** ] を選択すると、ツールバーを画面上でドラッグすることができます。

## タブページをカスタマイズする

詳細画面に表示するタブページとその表示順をAssetCenterのユーザのコンピュータごとにカスタマイズすることができます。タブページの表示をカスタマイズしても、他のコンピュータ上の設定は変わりません。

タブページの表示を変更するには、タブ上で [ **タブページの設定** ] ポップアップメニューを選択します。



図 3.1. 詳細画面のタブページの選択



- 非表示のタブページを表示するには、タブページ名を左側のリストで選択しダブルクリックします。
- 表示されているタブページを非表示にするには、タブページ名を右側のリストで選択しダブルクリックします。
- タブページの表示順を選択するには、項目を選択し、矢印ボタンを使って項目を1つずつ希望の位置に移動させます。リストで最上位のタブページが詳細画面の一番左に表示されます。

## AssetCenterの一般的な操作オプション

AssetCenterオプションのパラメータを変更するには、【編集/オプション】メニューを使用します。

オプションの内容を知るには、

- 1 【編集/オプション】メニューでオプションのウィンドウを表示します。
- 2 オプションを選択します。

- 3 オプションのウィンドウに表示される【説明】フィールドを参照します。  
オプションを変更するには、
- 1 【編集/オプション】メニューでオプションのウィンドウを表示します。
- 2 変更するオプションを選択します。
- 3 【値】の列をクリックします。
- 4 リストがある場合にはリストから値を選択します。またはキーボードで値を入力します。

---

 **注意:**

【OK】をクリックすると、オプションウィンドウで変更された内容が保存されます。

---

## ボタンの機能

- 【リセット】：全オプション値がデフォルト値へ戻され、リセットされた値が保存されます。

---

 **警告:**

リセットをキャンセルすることはできません。  
オプションの一部のみをリセットすることはできません。

- 【適用】：全オプション値を保存しますが、ウィンドウは開いたままになります。

---

 **警告:**

この操作をキャンセルすることはできません。

- 【OK】：全オプション値を保存し、ウィンドウを閉じます。

## 管理者用の情報

オプションには次の種類があります。

- データベースから独立したオプション  
オプション値は、オプションを定義するコンピュータのハードディスクに保存されます。
- データベースに依存するオプション  
オプション値はデータベース内に保存され、オプションの変更時に使用されたログインへ関連付けられます。  
他のユーザが別のコンピュータからデータベースへ接続しても、同一のログインを使用する場合、同じオプション値を使用することになります。

---

 ヒント:

オプションがデータベースから独立しているかどうかを確認するには、

- 1 データベースは接続せずにAssetCenterを起動します。
  - 2 **【編集/オプション】**メニューでオプションのウィンドウを表示します。
  - 3 この状態でオプションのリストを開きます。表示されるのはデータベースから独立したオプションで、これらはオプションを変更するコンピュータのハードディスクに保存されます。
-



# 4 | リスト内でレコードを検索する

本章では、AssetCenterのテーブル内のレコードをフィルタを用いて検索する方法について説明します。

本章の内容は以下の通りです。

- 使用可能なフィルタの種類
- 一般的なフィルタの使用方法
- 検索を絞り込むために複数のフィルタを使用する

## 検索用フィルタの概要

レコードのリスト（従業員など）を表示するときは、リスト内のすべてのレコードまたは選択したレコードだけを表示することができます。レコードを選択するには、フィルタを使います。

ツリー構造またはリスト形式のいずれの場合でも、同時に複数のフィルタを使用することができます。

## 使用可能なフィルタの種類

フィルタには次の種類があります。




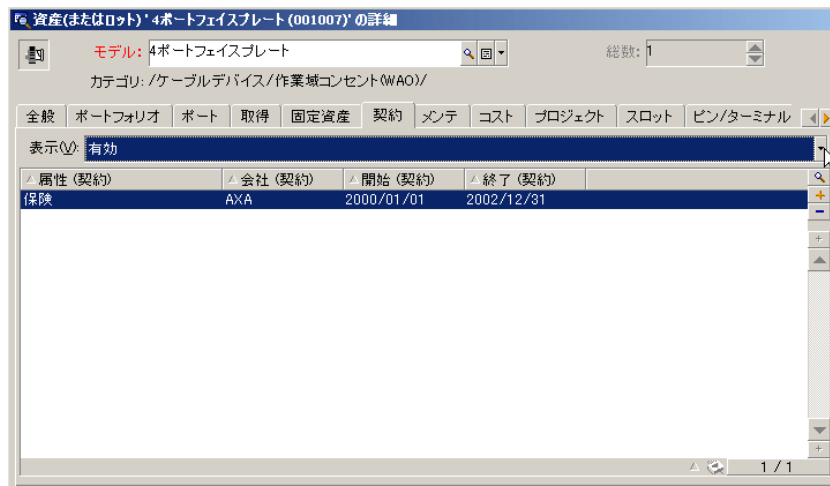
-  **標準フィルタ**：表示しているリスト専用の規定のフィルタです。例えば、部署と従業員のリストを表示している場合は、従業員のみ、部署のみ、または両方を表示できるフィルタを使用できます。
-  **シンプルフィルタ**：このフィルタでは、選択条件を1つだけ指定します。テーブルまたはリンクしているレコードに含まれている情報だけを選択条件として使います（例えば、従業員のリストの場合、選択条件として従業員名は使用できますが、配属先の所在地名は使用できません）。
-  **クエリフィルタ**：このフィルタではユーザが作成するクエリを実行します。クエリを使うと、リストまたはリンクしているテーブル内の複数の情報を選択条件として組み合わせることができます。
- **専用フィルタ**：詳細画面の一部のタブページにはレコードのリスト（任意管理項目または経費明細）が表示されます。これらのレコードリスト用のフィルタを、ドロップダウンリストから選択できる場合もあります。フィルタの条件により、リストの一部のレコードのみを表示できるようになります。

図 4.1. 資産の対象となる契約用の専用フィルタ




## フィルタの用途

リストには以下の数種のフィルタを同時に使用することができます。

- 状況に応じて自動的に適用されるフィルタ。詳細画面のフィールド値の組み合わせに応じて、表示される内容が変化します。例えば、リンクのドロップ

ダウンリスト内に表示されるレコード値は自動的に状況に応じて変化します。ユーザは、フィルタが適用されていることは直接には分かりません。

- ユーザプロファイルの「アクセス制限」に応じて適用されるフィルタ。アクセス制限を適用すると、ユーザプロファイルのクエリで定義されている条件に一致するレコードだけが表示されます。ユーザには、これらのフィルタが適用されていることは直接分かりません。
- リストにフォアグラウンドで適用するフィルタ（シンプル、クエリ、標準、専用フィルタ）。表示されているリストの専用メニューから選択します。ユーザにはこれらのフィルタが適用されていることが左側のフィルタ枠ではっきりと分かります。
- リストにバックグラウンドで適用されるフィルタ。ポップアップメニュー【リストの設定】の【フィルタ(WHERE句)】タブで、フィルタを定義します。フィルタが適用されると、アイコンがリストの下にカラーで表示されます（このアイコンを直接クリックすると、【フィルタ】タブが表示されます）。

## フィルタの適用規則



- フィルタはリストに表示される行の数を減らしますが、列数には影響しません。
- 階層構造になっているテーブルは、レコードの従属関係をツリー構造で表示することができます。フィルタ条件に一致するレコードは明確に表示され、一致しないレコードは灰色で表示されます。
- メインリストのフィルタを保存する場合は、ビューとして（【ツール】メニュー）保存します。
- フィルタを適用するには、フィルタの指定領域に表示される  アイコンをどれか1つ押します。このアイコンが表示されない場合は、指定したフィルタが自動的に適用されていることを意味します。アイコンが淡色  で表示される場合は、フィルタによる検索が既に行われたことを示します。フィルタ条件を変更または追加すると、通常アイコンに戻ります。
- データベースの変更事項をフィルタに反映させるには、[F5] キーを押すか、または【ウィンドウ/更新】コマンドを使います。
- 複数のフィルタを同時に適用すると、AND条件（ORではなく）で適用されます。フィルタで1つのレコードが表示される場合、そのレコードは複数フィルタのすべての条件を満たす必要があります。
- フィルタを定義する論理的条件を作成するには、以下の比較演算子を使用します。

表 4.1. 比較演算子


演算子	説明
すべて	条件に制約はありません（これは特定の場合にのみ表示されます。）
=	等しい
>	より大きい
<	より小さい
>=	以上
<=	以下
<>	等しくない
LIKE NOT LIKE	=演算子のように機能し、ワイルドカード文字（任意の文字列には%、固有の文字には_）を使用できます。例えば、場所のテーブルから「横浜ビル」の従属所在地を探すには、LIKE '横浜ビル/%' を使います。

 注意:

【フルネーム】（SQL名：FullName）フィールドおよびコメントなどで'LIKE X' 句のXが128文字を超える場合は、SQL Anywhereでは処理できません。Xが129文字以上の場合は、フィルタアプリケーションにより、ODBCエラーメッセージが表示されます。

## リストの使用

フィルタを使ってレコードを選択するには、次の2つの方法があります。


- フォアグラウンドで1つまたは複数のフィルタをメインリストに適用する。これらのフィルタの定義は、表示しているリストのウィンドウ左側に表示されます。
- バックグラウンドでクエリフィルタを全リストに適用する。このフィルタの詳細は表示しているリストのウィンドウには表示されませんが、 アイコンがカラーで表示されるため、フィルタが適用されていることが分かります。

 注意:

この2つの方法を同時に使うこともできます。フォアグラウンドで1つまたは複数のフィルタを適用しながら、バックグラウンドで1つのフィルタを適用することも可能です。

フィルタを削除するには、以下の方法があります。



- リストに適用したすべてのフィルタを削除するには、ポップアップメニューまたはリストの専用メニューから **[フィルタなし]** メニューを選択します。
- 適用したフィルタの1つを削除するには、
  - 1 無効にするフィルタの定義上にマウスを置きます。
  - 2 マウスの右ボタンをクリックして、ポップアップメニューを表示します。
  - 3 **[このフィルタを削除]** を選択します。
- バックグラウンドで適用したクエリフィルタを削除するには、ポップアップメニューから **[リストの設定]** を選択し、表示される **[フィルタ (WHERE句)]** タブページで  ボタンをクリックすると、バックグラウンドフィルタのAQL条件が削除されます。

**注意:**

AssetCenterはクエリの結果をできる限り高速で表示します。大量のレコードを含むデータベースでも、データ処理を最適化することにより、即時に結果を表示することも可能です。結果が表示される速度は、使っているデータベースエンジン、ネットワーク速度、およびデータベースのサイズによって異なります。


## 1つまたは複数のシンプルフィルタ適用する


シンプルフィルタはメインリストのみに適用されるため、フォアグラウンドのフィルタになります。

- 1 フィルタを適用するレコードのリストを表示します。
- 2 リストの専用メニュー（**[編集]**の右側のメニュー）から **[シンプルフィルタ]** コマンドを選択します。


リストの左上部分にフィルタ定義用の枠が表示されます。

**注意:**

フィルタを適用するフィールドまたはリンクにカーソルを置いて右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。**[このフィールドで検索]** または、**[このリンクで検索]** を選択します。 をクリックすると、対応するレコードがリスト内に表示されます。

- 3 フィルタを適用するオブジェクトを  右のドロップダウンリストから選択します。
- 4 ドロップダウンリストから比較演算子を選択します。
- 5 値を入力します。ドロップダウンリストで選択されたオブジェクトはこの値に比較されます。

リンク先のテーブルが階層構造である場合、[ナビゲーション]項目の[ドロップダウンリストをツリー構造で表示]オプションを選択すると、リストの下にチェックボックスが表示されます。これをオンにすると、選択されたオブジェクトの従属項目にもフィルタが適用されます。

- 6  をクリックすると、フィルタが適用されたレコードが表示されます。
- 7 手順2に戻って別のフィルタを作成します。

## クエリフィルタを作成する


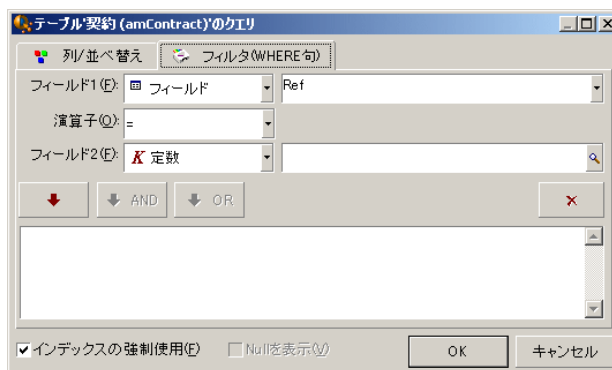

- 1 リストを選択し表示します。
- 2 専用メニューの[クエリフィルタ]コマンドまたはメインリストのポップアップメニューを使って、フィルタ定義用の枠を表示します。
- 3 フィルタ定義用の枠内の第1のフィールドにはドロップダウンリストがあります。リストから既存のクエリを1つ選択します。  
フィルタ条件を定義するには、クエリのAQL式をテキスト用の枠内に入力します。  
AssetCenterでクエリを簡単に作成するには、リスト内で右クリックして、ポップアップメニュー[リストの設定]を選択するか、またはフィルタ定義用枠内の  をクリックします。

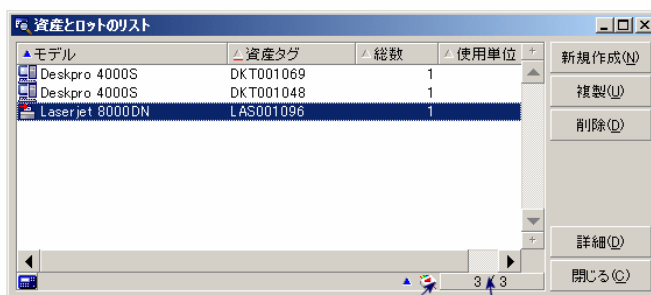
図 4.2. クエリの作成画面





- 1 [フィルタ]タブ内のフィールド1と2に値を入力し、フィルタの条件を定義します。演算子はこれらの2フィールドを論理的に比較します。


赤色の矢印をクリックすると、条件がクエリ内に挿入されます。 をクリックするとクエリは削除されます。クエリを確定するには、**[OK]** をクリックします。

2 フィルタの適用された資産のリストは以下のようになります。



バックグラウンドでフィルタが使用されている(つまり[リストの設定]ポップアップメニューでフィルタが作成されている)と、アイコン  は  になります。

全フィルタで抽出されたレコードの総数の内、メモリに読み込まれたレコードの数。右側の数の代わりに「？」が表示される場合は、ボタンをクリックして再計算します。

4  をクリックします。



# 5 | ウィザードの概要

ウィザードにアクセスするには、[ツール/アクション/編集]メニューを使い、[ウィザード]タイプのアクションを選択します。

## ウィザードの定義

AssetCenterのウィザードを使うと、単純で順序立てて処理する必要のあるタスクを簡単に実行できます。ユーザは、画面に表示されるグラフィックの指示に従って、タスクを段階的に処理することができます。AssetCenterには、次のタスクを実行できる定義済みのウィザードが用意されています。

- 1つの場所から他の場所にユーザと資産を移動する。ユーザ（従業員）、対応する割当て資産および新しい設置場所を選択すると、ウィザードによってこの情報が取り込まれ、資産とユーザの場所が更新されます。
- 在庫を簡単に管理する。在庫中の資産、ユーザ、設置場所を選択すると、ウィザードによって、資産が選択された従業員と設置場所に割り当てられます。
- 特定のアクションを実行するために必要な情報を収集する。
- レコードの入力を効率的に行う。

 **注意:**

AssetCenterに付属しているウィザードを使用するだけでなく、独自のウィザードを作成することもできます。

## ウィザードのユーザ

ウィザードは、通常のユーザだけでなくパワーユーザにとっても非常に便利な機能です。

- 通常のユーザは、AssetCenterの複雑なメカニズムを理解することなく複雑なタスクを実行できます。
- パワーユーザは、独自のウィザードを作成するか、社内のニーズに合うように既存のウィザードをカスタマイズできます

## ウィザードの分類

ウィザードには、次の2つの種類があります。

- AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード
- 独立ウィザード

### AssetCenterデータベースと情報を交換するウィザード

このウィザードには、次の2つのタイプがあります。

#### データ入力ウィザード

このウィザードは、データ入力とレコードの作成を素早く行うことを目的としています。例えば、「新規ユーザ」ウィザードは、部署と従業員テーブルにレコードを作成する手順を示します。従業員に関する情報は、ウィザードによって収集され、対応するレコードが作成されます。ユーザは、詳細画面に直接情報を入力する必要はありません。ウィザードが実行します。

#### データ収集ウィザード

特定のアクションでは、AssetCenterデータベースの値または変数の値が必要です。データ収集ウィザードを使うと、必要な情報を簡単に収集し表示できます。例えば、「移動」ウィザードでは、移動する資産、これらの資産のユーザ、新

しい設置場所に関する情報が収集されます。この情報に基づいて、データベースのデータが変更されます。

## 独立ウィザード

独立ウィザードは、基本的に、計算の実行や情報の表示に使われます。例えば、ユーザが入力した2つの値の合計を計算する「合計」ウィザードを作成することができます。



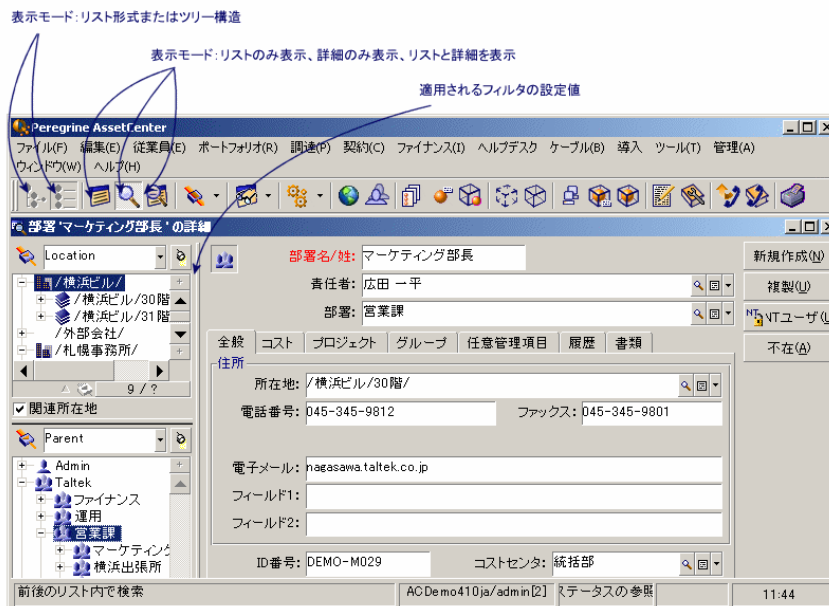


## 6 | ビューの使用方法

---

本章では、AssetCenterのビューの使用方法について説明します。  
ビューのリストを表示するには、[ツール/ビュー]メニューを選択します。

図 6.1. ビューに保存される項目



## ビューの定義

ビューを使うと、リストの次の表示条件を保存することができます。

- 表示モード：[ツリー構造で表示]または[リスト形式で表示]
- 表示モード：[詳細のみ]、[リストのみ]、または[リストと詳細]
- 並べ替えの基準
- 適用するフィルタとフィルタの値
- リストと表示列の幅
- ウィンドウのサイズ

ビューを作成すると、定期的に作成する必要があるレポートを簡単に作成できます。一度ビューを保存すると、毎回同じレイアウトでビューを印刷できます。

### 例

- 20万円を越す未割当ての資産のリストをツリー構造で表示する。
- Faxを設置しているすべてのオフィスのリストを、オフィス番号、Faxのモデル、およびユーザ名と一緒に表示する。

## ビューを作成する

- 1 ビューとして保存する条件でリストを表示します。
- 2 **【ツール/ビュー/現在のウィンドウから作成】**メニューを使ってリスト画面を保存します。

ビューのテーブルへのアクセス権限を持つAssetCenterのユーザ全員がビューを作成できます。他のユーザがビューにアクセスできるようにするかどうかは、ビューの作成者が決定します。AssetCenterの管理者は、ユーザが非公開に設定したビューも含め、全ユーザが作成したビューを表示、変更、および削除できます。

## ビューを表示する


**【ツール/ビュー】**メニューから表示するビューを選択します。

メニューに表示されるビューは、自分で作成したビューと他の作成者が公開しているビューだけです（**【メニューに表示】**（SQL名：bVisible）オプションをオンにする必要があります）。

ビューは、保存したすべてのパラメータを使って表示されます。

同じ情報のリストが既に表示されている場合でも、新しいウィンドウが表示されます。ウィンドウタイトルにはビューの名前が表示されます。

### 注意:

ツールバーの  ボタンを使って、ビューのリストを表示することもできます。このボタンをクリックすると、最後に表示したビューのアイコンが表示されません。

## ビューを削除する

- 方法（1）
  - 1 ビューを表示します。
  - 2 **【ツール/ビュー/現在のビューをはずす】**メニューを使って、ビューを削除します。
- 方法（2）
  - 1 **【ツール/ビュー/編集】**メニューを選択して、ビューのテーブルを表示します。
  - 2 削除するビューを選択します。

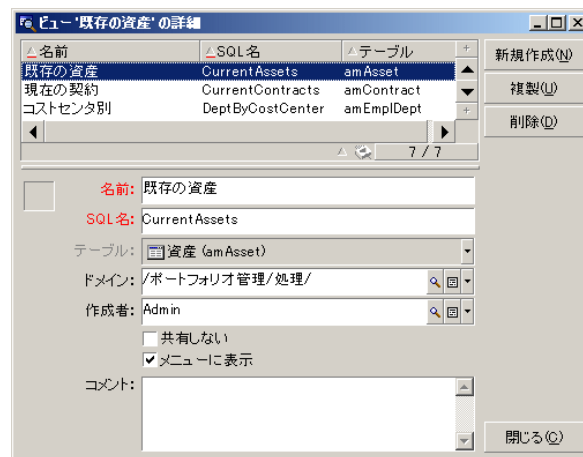
- 3 [削除]をクリックします。

## ビューを変更する

- 1 ビューの画面を表示します。
- 2 ビューを変更します。
- 3 [ツール/ビュー/現在のビューを変更]メニューを使って変更を保存します。


## ビューを編集する（管理者向け）

管理者は、[ツール/ビュー/編集]メニューを用いて既存のすべてのビューのリストにアクセスすることができます。



管理者は、選択したビューの詳細画面の各フィールドに値を入力しなければなりません。

- 名前：ビューに名前を付けます。
- SQL名：SQL名でビューに名前を付けます。
- テーブル：ビューの適用先のテーブルを指定します。
- ドメイン：機能ドメインのテーブルから選択されたドメインをビューに関連付けます。
- 作成者：従業員のテーブルからビューの作成者を選択します。

- 共有しない：このチェックボックスがオンになっていると、管理者以外のユーザはビューを使用できません。
- メニューに表示：このチェックボックスをオンにすると、**[ツール/ビュー]**メニューまたは  ボタンを使ってビューにアクセスできるようになります。



# 7 | スケジュールのグラフィック表示

## 概要

### スケジュールのグラフィック表示とは

スケジュールのグラフィック表示とは、開始日時と終了日時、場合によっては期限を含むイベントを表記する機能です。

これらのイベントは、1つの独立したレコードまたは複数のレコードに関連しません。

例

- 従業員の不在
- 契約期間

スケジュールのグラフィック表示のページは、単純なデータ（開始日時、終了日時、場合によっては期間）を表示するだけです。

このページには、緻密な計画作成の機能（全工程の管理など）はありません。

### スケジュールのグラフィック表示がデフォルトで設定されている箇所

スケジュールのグラフィック表示は、デフォルトで以下のテーブルの詳細画面で使用可能になっています。

- **従業員**（SQL名：amEmpIDept）：[不在のプレビュー]タブでは不在を表示できません。
- **作業指示**（SQL名：amWorkOrder）：[プレビュー]タブでは、スケジュール付きの作業指示を表示できます。
- **契約**（SQL名：amContract）：[プレビュー]タブでは、契約でスケジュールが規定された作業指示を表示できます。
- **プロジェクト**（SQL名：amProject）：[プレビュー]タブではプロジェクトを表示できます。

### スケジュールのグラフィック表示のページを追加できる箇所

スケジュールのグラフィック表示のページを、以下の箇所に追加することができます。

- テーブルの詳細画面（AssetCenter Database Administratorを使って追加する）
- ウィザード（AssetCenterを使って追加する）

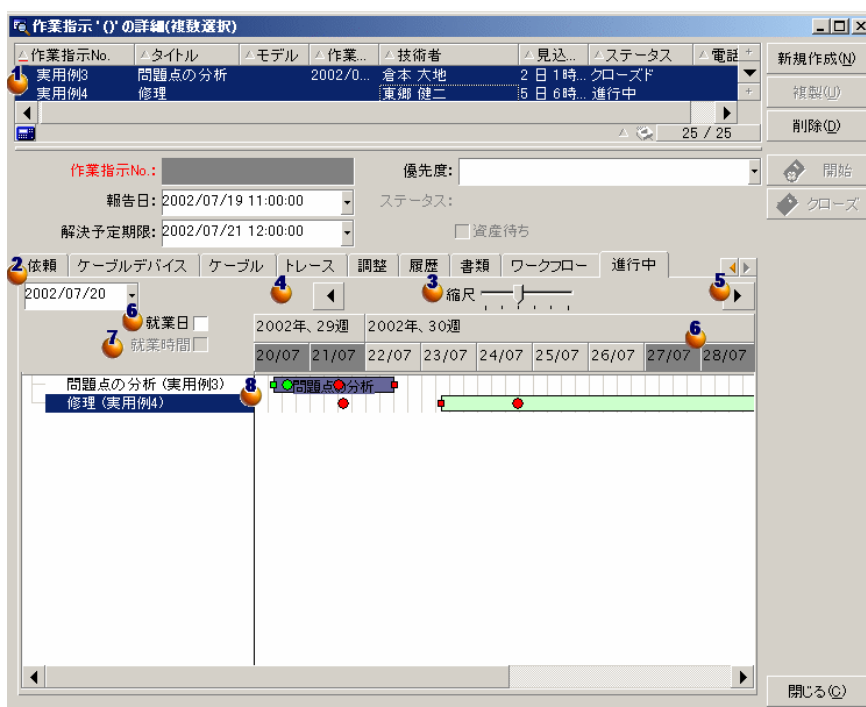
追加は、少なくとも以下の情報がある場合に可能になります。

- 開始を格納するフィールド（日付のみまたは日付と時刻）
- 終了を格納するフィールド（日付のみまたは日付と時刻）



## スケジュールのグラフィック表示のページの使用

図 7.1. スケジュールのグラフィック表示 - 画面



- 1 レコードを複数選択してスケジュールをグラフィック表示します。
- 2 6 の枠の一番左側に表示する最初の日付を選択します。
- 3 スライダーを移動させるか、またはスライダーの右側か左側をクリックして、期間表示の縮尺（年、月、週など）を指定します。
- 4 ◀ をクリックすると、画面の期間の左側を表示できます（時間を前に戻します）。
- 5 ▶ をクリックすると、画面の期間の右側を表示できます（時間を先に進めます）。
- 6 【就業日】オプションをオンにすると休日が非表示になります。オフの場合休日は濃灰色で表示されます。【就業日】オプションは、3 の【縮尺】に応じて使用可能または使用不可能になります。

**7** **[ 就業時間 ]** オプションをオンにすると勤務時間のみが表示されます。 **[ 就業時間 ]** オプションは、**3** の **[ 縮尺 ]** に応じて使用可能または使用不可能になります。

**8** **1** のリストで選択されたレコードに関連するイベントのグラフィック表示。

- 横棒  は、イベントの開始と終了の間の期間を表しています。  
イベントの開始と終了を定義するフィールドは、スケジュールのグラフィック表示のページで定義される内容に依存します。

横棒  上にポインタを置くと、イベントの重要な情報がヒントで表示されます。

横棒  を移動させるには、マウスの左ボタンで棒の内側を選択し、右または左に動かします。イベントの開始時と終了時のみを変更され、イベントの期間はそのままになります。

開始日時のみを変更する場合は、横棒  の左側にマウスポインタ置きます。ポインタの形状が変化したら、左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。終了日時は変更しません。

終了日時のみを変更する場合は、横棒  の右側にマウスのポインタを置きます。ポインタの形状が変化したら、左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。開始日時は変更しません。

データベースに変更事項を保存するには、 **[ 変更 ]** ボタンで確定する必要があります。

- 赤色の丸印 ● と緑色の丸印 ● は期限を表します。これは、スケジュールのグラフィック表示のページ用に期限が定義されている場合です。例えば、作業指示の **[ 解決予定期限 ]** (SQL名: dtResolLimit) フィールドで定義する場合があります。「従業員の不在」の場合には表示されません。

期限が遵守されていない場合、丸印は赤になります。

期限が遵守されている場合は緑色になります。

- 赤い角印 ■ と緑の角印 ■ は、期限が存在することを表します。各角印は、同じ色の丸印に関連付けられています。

イベントの開始時に期限が定義されていると、角印は横棒  の左に位置します。

イベントの終了時に期限が定義されていると、角印は横棒  の右に位置します。

角印が関連する期限が遵守されていない場合、角印は赤になります。

期限が遵守されている場合は緑色になります。

## 実用例

以下の実用例では、スケジュールのグラフィック表示の機能を説明します。

### 実用例の手順

実用例では以下の操作を実行します。

- 1 グループを1つ作成する
- 2 技術者を2人作成する
- 3 作業指示を2つ作成する
- 4 作業指示の重要な日付を表示する
- 5 重要な日付の一部を画面で変更する

#### 手順1 - グループの作成

- 1 AssetCenterを起動します。
- 2 デモ用データベースへ接続します。
- 3 グループのリストを表示します（[ポートフォリオ/グループ]）。
- 4 グループを1つ作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

フィールドの名前	フィールドのSQL名	値
名前	Name	実用例 - グループ

- 5 ウィンドウを閉じます（[閉じる]ボタン）。

#### 手順2 - 技術者の作成

- 1 従業員のリストを表示します（[ポートフォリオ/部署と従業員]）。
- 2 従業員を2人作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

タブ	フィールドまたはリンクの名前	フィールドまたはリンクのSQL名	作業指示1の値	作業指示2の値
	名前	Name	森川俊三	田中俊夫
グループ	グループのメンバー	EmplGroups	実用例 - グループ	実用例 - グループ

- 3 ウィンドウを閉じます（[閉じる]ボタン）。

### 手順3 - 作業指示の作成

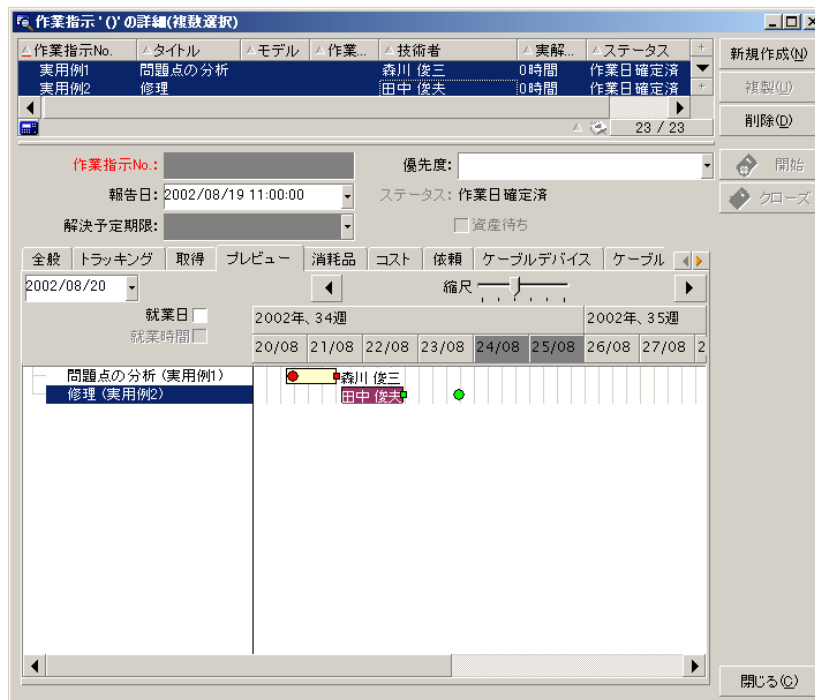
- 1 作業指示のリストを表示します（[ポートフォリオ/作業指示]）。
- 2 作業指示を2つ作成し、以下のフィールドにデータを入力します。

タブ	フィールドの 名前	フィールドの SQL名	作業指示1の値	作業指示2の 値
	作業指示No.	WONo	実用例1	実用例2
	報告日	dtNotif	2002/08/19 11:00:00	2002/08/19 11:00:00
	解決予定期限	dtResolLimit	2002/08/20 17:00:00	2002/08/23 17:00:00
全般	タイプ	seType	内部メンテナンス	内部メンテナ ンス
全般	タイトル	Title	問題点の分析	修理
トラッキング / 技術者	技術者	Contact	森川俊三	田中俊夫
トラッキング / スケジュー ル	開始予定日	dtSchedFixStart	2002/08/20 14:00:00	2002/08/21 14:00:00
トラッキング / スケジュー ル	終了予定日	dtSchedFixed	2002/08/21 12:00:00	2002/08/22 17:00:00

### 手順4 - 2つの作業指示のスケジュールの表示

- 1 実用例1と実用例2の作業指示を両方選択します。
- 2 [プレビュー] タブページを選択します。

図 7.2. スケジュールのグラフィック表示 - 作業指示での例



3 【縮尺】カーソルおよび ◀ と ▶ ボタンを使って、2つの作業指示が実行される期間を表示します。

ページの解読方法は以下の通りです。

- 横棒  は、作業指示の開始予定日（SQL名：dtSchedFixStart）と終了予定日（SQL名：dtSchedFixed）を表しています。  
横棒の色は、選択された技術者に応じて変化します。
- 赤い丸印●と緑の丸印●は、期限（【解決予定期限】（SQL名：dtResolLimit）フィールドの日付）を表しています。
- 赤い角印■と緑の角印■は、期限が存在することを表しています。
- 作業指示「実用例1」の丸印●と角印■は、終了予定日（SQL名：dtSchedFixed）が解決予定期限（SQL名：dtResolLimit）よりも後のため、赤色になっています。
- 作業指示「実用例2」の丸印●と角印■は、終了予定日（SQL名：dtSchedFixed）が解決予定期限（SQL名：dtResolLimit）よりも前のため、緑色になっています。

## 手順4 - 日付を画面で変更する

- 1 作業指示のリストを表示します（[ポートフォリオ/作業指示]）。
- 2 実用例1と実用例2を両方選択します。
- 3 [プレビュー]タブページを選択します。
- 4 「実用例1」の横棒□の内側にマウスのカーソルを置き、左ボタンで横棒全体を移動させます。  
変更事項を[変更]ボタンを使って確定します。  
[開始予定日]と[終了予定日]フィールドが変更されます。
- 5 「実用例2」の横棒□の左側にマウスポインタを置くと、ポインタの形状が変化します。左ボタンをクリックしてポインタを移動させます。  
[開始予定日]フィールドの値は変更されますが、[終了予定日]フィールドは変わりません。

## スケジュールのグラフィック表示のページ機能をカスタマイズする

スケジュールのグラフィック表示の全ページの機能を設定するオプションは、[編集/オプション]メニューの[表示/スケジュールのグラフィック表示]項目で定義できます。

### 注意:

土曜日と日曜日は休日として表示されます。これは変更不可能です。

# 8 データの印刷

本章では、AssetCenterでデータを印刷する方法について説明します。

**【ファイル/印刷】**メニューまたは[Ctrl+P]キーを使うと、フィルタや列の設定内容を適用して、全メインリストまたはレコードの一部を印刷できます。

AssetCenterでは2つのレイアウトを使用できます。

- 内部書式：この書式用のリストや詳細のテンプレートは書式のテーブルに含まれています。

**【ツール/レポート機能/書式】**メニューで書式のテーブルにアクセスすると、書式を作成、変更または削除できます（『AssetCenterの高度な使い方』マニュアルの書式に関する章を参照してください）。

- Crystal Reportsのレポート書式：この書式用のリスト、詳細、グラフ、例のテンプレートはレポートのテーブルに含まれています。

使用可能なレポートを参照するには、**【ツール/レポート機能/レポート】**メニューでレポートのテーブルを開きます。Crystal Reportsでは新規レポートを追加作成できるため、内部書式よりも多彩な書式の設定が可能になります。

## リストの情報を印刷する

- 1 メインリストを表示します。

- 2 **【ファイル/印刷】**メニューを選択します。
- 3 **【タイプ】**のドロップダウンリストから、書式を1つ選択します。
  - 詳細（内部）：メインリスト全体または選択したレコードの情報を、「詳細」テンプレートに基づいて印刷します。

**【書式】**フィールドには、印刷するメインリスト用の詳細書式（**【書式】**テーブルから選択されます）が表示されます。書式は印刷の内容と書式を指定します。
  - リスト（内部）：メインリスト全体または選択したレコードの情報を、「リスト」テンプレートに基づいて印刷します。

**【書式】**フィールドには、印刷するメインリスト用のリスト書式（**【書式】**テーブルから選択されます）が表示されます。書式は印刷の内容と書式を指定します。
  - 詳細レポート(Crystal Reports)：メインリストの1レコードを、詳細テンプレートに基づいて印刷します。

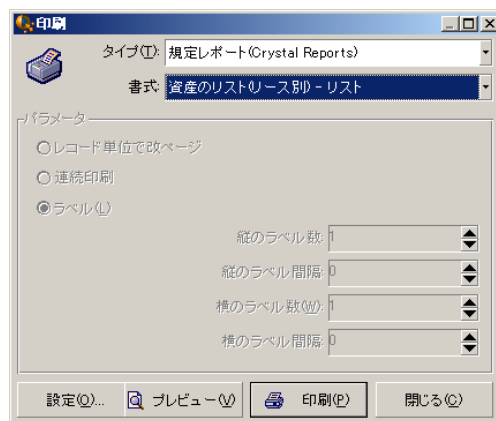
複数のレコードを印刷するには、各レコードごとに印刷の手順を繰り返す必要があります。印刷用ダイアログボックスの**【書式】**フィールドには、参照テーブル付きのレポートが表示されます。ここに表示されるレポートの**【テーブル】**（SQL名：TableName）フィールド（**【レポート】**テーブル内）は、印刷する現在のテーブルに一致します。レポートは印刷の内容と書式を指定します。
  - 規定レポート(Crystal Reports)：全てのレポート用テンプレートから印刷するテンプレートを選択できます。

選択されている現在のメインリストとは無関係に印刷が実行されます。印刷用ダイアログボックスの**【書式】**フィールドには、参照テーブルを明記しないレポートが表示されます。**【レポート】**テーブル内の**【テーブル】**（SQL名：TableName）フィールドが空の場合のみ、レポートがこのフィールドに表示されます。レポートは印刷の内容と書式を指定します。
- 4 **【書式】**のドロップダウンリストから書式を選択します。
- 5 **【印刷】**をクリックします。



## 複数レコードの詳細を印刷する

[タイプ] (SQL名: Type) フィールドで「詳細(内部)」を選択し、メインリストの複数レコードを印刷する場合、以下の3つのオプションから1つを選択する必要があります。



- レコード単位で改ページ：各レコードの詳細を改ページして印刷します。
- 連続印刷：改ページせずに、各レコードの詳細を連続して印刷します。
- ラベル：以下のパラメータに基づき、各レコードの詳細にラベルを付けて印刷します。
  - 縦のラベル数
  - 縦のラベル間隔：ラベルの行間隔をミリメートル単位で設定します。
  - 横のラベル数
  - 横のラベル間隔：ラベルの列間隔をミリメートル単位で設定します。

### 注意:

レコードを1つしか選択しない場合は、これらのパラメータは不必要なため使用不可能になります。

## 印刷プレビュー

印刷プレビューを表示するには、[プレビュー]をクリックします。

印刷プレビューウィンドウでは次の操作を行うことができます。

- 使用するプリンタの変更（**[設定]** ボタン）
- 書式の余白および拡大 / 縮小率の変更（**[ページ設定]** ボタン）
- データの印刷（**[印刷]** ボタン）
- 書式の他のページの表示（**[次ページ]** ボタンおよび **[前ページ]** ボタン）


# 9 | Knowlix

---

AssetCenterではKnowlixを統合して使用できます。フィールドのテキストを選択すると、Knowlixのナレッジベースで検索を実行できます。

Knowlix Frontlineのバージョン4.6以上がインストールされると、統合は自動的に実行されます。AssetCenterで【Knowlixを検索】コマンドが実行されるたびに、DDEスクリプトはKnowlix Frontlineを起動するか、またはKnowlix Frontlineをフォアグラウンドに表示します。

Knowlixの知識ベースから情報を獲得するには、次の手順に従います。


- 1 情報を獲得するフィールドのテキストを選択します。
- 2 次のアクションの1つを実行します。
  -  をクリックします。

---

 **注意:**

【**ツール/ツールバーのカスタマイズ**】メニューを選択して、このアイコンをあらかじめツールバーに追加しておく必要があります。

- 
- 【**ヘルプデスク**】メニューから【**Knowlixを検索**】を選択します。
  - 3 Knowlixが表示されるのを待ちます。
  - 4 Knowlixが提案する解決策から1つを選択します。
  - 5 この解決策をクリップボードから取得するには、次のアクションの内1つを実行します。

-  をクリックします。  
[ **ツール/ツールバーのカスタマイズ** ] メニューを選択して、このアイコンをあらかじめツールバーに追加しておく必要があります。
- [ **ヘルプデスク** ] メニューから [ **Knowlixから解決策を獲得** ] を選択します。

# 10 | 参考情報

## 接続

### データベースへの接続を作成する

- 1 **【ファイル/データベース接続の管理】**メニューを選択します。
- 2 **【新規作成】**をクリックします。
- 3 **【接続】**タブページに入力します。
  - 1 **【名前】**フィールドに、接続の名前を入力します。ここで指定した名前は、**【ファイル/データベースに接続】**メニューのダイアログボックスに表示されます。  
AssetCenterを起動したり、MS-DOSプロンプトからインポートスクリプトを実行したりする場合も、この名前を使用します。
  - 2 **【説明】**フィールドには接続の簡単な説明を記入します。
  - 3 **【エンジン】**フィールドのドロップダウンリストから、データベースエンジンを選択します。  
IBM Database Universal Server、Microsoft SQL Server、Oracle、Sybase SQL Anywhere、Sybase SQL Serverの内から値を選択します。
- 4 エンジン固有の情報を入力します。

- **【データソース】**：IBM Database Universal Server、Microsoft SQL Server またはSybase SQL Anywhereデータベースへのアクセスを可能にするODBCデータソース
- **【サーバ】**：データベースを格納しているOracleまたはSybase SQL Serverのサーバの名前
- **【データベース】**：ODBC接続名（IBM Database Universal ServerまたはMicrosoft SQL Server）またはデータベース名（Sybase SQL Server）
- **【ユーザ】**：データベースへのアクセス時にユーザを識別するログイン名（IBM Database Universal Server、Microsoft SQL ServerまたはSybase SQL Anywhere）
- **【Oracleのアカウント】**：接続に使うOracleアカウントの名前。ログインとして使います。
- **【Sybaseアカウント】**：接続に使うSybase SQL Serverの名前。ログインとして使います。
- **【パスワード】**
- **【所有者】**：データベースの所有者。データベースに送信するSQLステートメントの接頭語として使用されます。

#### 5 **【作成】**をクリックします。

AssetCenterのすべてのユーザが、特定のデータベースへの接続を、異なる名前を使って複数作成できます。そのためには、**【新規作成】**ボタン、または**【複製】**ボタンを使用します。

**【テスト】**ボタンを使うと、次の操作を実行できます。

- データベース接続のテスト
- データベースが現在のAssetCenterバージョンと互換性があるかどうかのチェック
- 空のデータベースからデータベースを作成する（DBMSを用いる）

データベースに接続するには、**【開く】**ボタンを押します。これは、**【ファイル/データベースに接続】**メニューを選択するのと同じです。

#### 付記

- **【所有者】**フィールドでは、データベースのテーブルに含まれていないデータベースログイン（**【ユーザ】**フィールド）を承認できます。この場合、データベースに送信されるすべてのSQLステートメントには接頭語が付きます。例えば、データベースの所有者が「Joe」の場合、「select a from b」というSQLステートメントは次のようになります。

```
SELECT Joe.a FROM Joe.b
```

**注意:**

[ **ファイル/データベース接続の管理** ] メニューを使ってデータベースを作成することはできません。データベースを作成するには、AssetCenter Database Administratorを使う必要があります。

## データベースへの接続を削除する

次の手順に従ってデータベースへの接続を削除しても、データベースが壊れることはありません。

- 1 [ **ファイル/データベース接続の管理** ] メニューを選択します。
- 2 削除する接続を選択します。
- 3 [ **削除** ] をクリックします。

## AssetCenterのパフォーマンス

低速ネットワークでAssetCenterを使う場合は、特定の要素（特に画像）の表示が遅くなることがあります。

その場合は、画像などの容量の大きいオブジェクトをクライアントのコンピュータのローカルドライブにコピーすると、プログラムのパフォーマンスを向上させることができます。このコピーを「キャッシュ」と呼びます。

### キャッシュの仕組み

- キャッシュを作成すると、ローカルフォルダ（ディレクトリ）にファイルのセットが作成されます。
- ユーザが画像などの項目を要求すると、ソフトウェアによりこれらの項目がキャッシュにコピーされます。
- 大きな項目（画像、書式、データベースなど）を表示するたびに、ソフトウェアにより、項目が変更されていないかどうかチェックされます。変更されていない場合は、キャッシュ内の項目が表示されます。変更されている場合は、キャッシュが更新され、正しい値が表示されます。

### キャッシュを作成する

- 1 [ **ファイル/データベース接続の管理** ] メニューを選択して、接続のリストを表示します。
- 2 既存の接続を選択します。または新しい接続を作成します。
- 3 [ **キャッシュ** ] タブページの [ **ディスクキャッシュを有効にする** ] チェックボックスをオンにします。

4 回ボタンを使って、**[キャッシュのローカルフォルダ]**を選択します。

**!** 警告:

キャッシュサイズは1MBから20MBの間で設定します。キャッシュが最大サイズに達すると、必要に応じてキャッシュ内の最も古い項目が消去され、新しい項目が追加されます。

## アクション

アクションは、AssetCenterから直接実行できるプログラムを呼び出す操作です。アクションを定義するには、**[ツール/アクション/編集]**メニューを選択します。

## アクションの種類

次の種類のアクションがあります。

- 実行可能プログラム
- DDE
- メッセージ
- スクリプト：AssetCenterデータベースのオブジェクトを変更します。
- ウィザード
- 印刷

## 「ウィザード」タイプのアクション

ウィザードは連続するページで構成されています。ユーザは、各ページで情報を選択したり、データを入力したりします。

ウィザードでは、次のように簡単にページ間を移動できます。




- ページに情報を正しく入力したら、**[次へ]**ボタンをクリックして次のページに移動します（移動先のページは遷移の設定によります）。最後のページまで進むと、このボタンは使用できなくなります。
- **[戻る]**ボタンをクリックすると、いつでも前のページに戻り、情報を訂正することができます。
- **[終了]**ボタンをクリックすると、ウィザードの最終アクションをいつでも実行できます。情報不足でウィザードが指定された業務を行うことができない場合は、必要な情報を入力するためのページが表示されます。

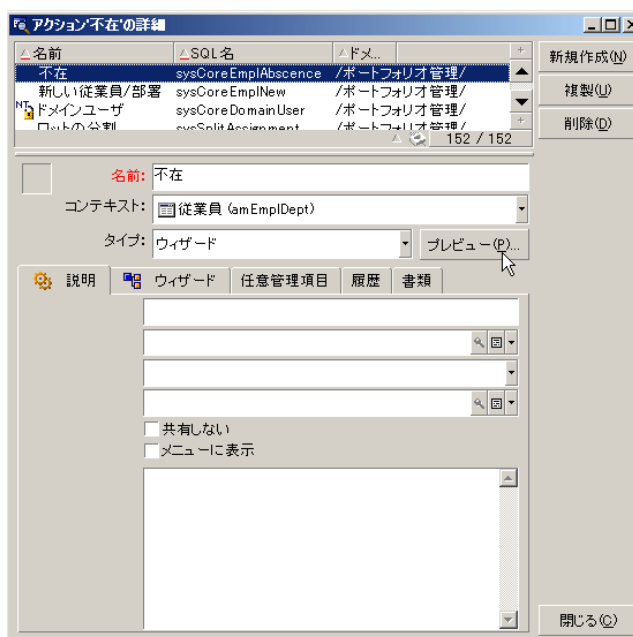
**[キャンセル]**ボタンをクリックすると、ウィザードの実行（および関連するアクション）を完全に取り消すことができます。



## アクションの実行

以下の方法でアクションを実行できます。

- ツールバーのボタン  をクリックします。  
ドロップダウンリストに使用可能なアクションの名前が表示されます。 ボタンをクリックするとアクションが新規に実行されます。アクションが既に実行されている場合は、 の代わりに、最後に実行されたアクションのアイコンが表示されます。
- **[ツール/アクション]** メニューで希望のアクションを選択します。
- アクションのプレビューから実行する。
  - 1 **[ツール/アクション/編集]** メニューでアクションのリストを表示します。
  - 2 アクションの **[コンテキスト]** (SQL名: ContextTable) フィールドにアクションの参照テーブルが指定されている場合、**[プレビュー]** をクリックします。



- 3 ウィンドウの **[コンテキスト]** のドロップダウンリストに、テーブルのレコードが表示されます。このリストからアクションのコンテキストを選択します。
- 4 **[実行]** をクリックします。

- ポップアップメニューの [**アクション**] メニューからアクション名をクリックします。  
[アクション] ポップアップメニューが表示される領域は限られています。このため、右クリックすべき場所（主に詳細画面内の一部のフィールド上）を憶えておくくと便利です。

---

 **ヒント:**

リストで複数のレコードを選択し、これらに1つのアクションを適用できます。

**例**

複数の資産を選択し、そのユーザに同じメッセージを送信できます。

---

## メッセージ

AssetCenterのユーザはメッセージを送受信できます。

受信したメッセージには、[ **ツール/メッセージ** ] メニューのメッセージのリストからアクセスできます。

[ **参照オブジェクト** ] ボタンを使用すると、メッセージに関連するレコードに直接アクセスできます。例えば、ユーザに新しい購入依頼が提出されていることを示すメッセージの場合、このボタンをクリックすると、この購入依頼の詳細情報に直接アクセスできます。

## 新規メッセージのチェック

[ **編集/オプション** ] メニューの [ **メッセージ** ] オプションで定義した定期チェックの頻度で、メッセージの受信が通知されます。




データベースへの接続時に、接続前に受信したメッセージなどの未読メッセージが検出されると、メッセージを読むように促すダイアログボックスが表示されます。

セッション中に新規メッセージを受信すると、同様なメッセージが表示され、メッセージを読むようにユーザに促します。


## 履歴

AssetCenterの特定のフィールドおよびリンクに加えられた変更の履歴を、保存することができます。

管理者は、**【オブジェクトの設定】**ポップアップメニューまたはAssetCenter Database Administratorを使って、これらのフィールドおよびリンクの履歴を保存するように定義する必要があります。

必要に応じて、 ボタンを使って、履歴項目を手動で追加することもできます。履歴項目を破棄、表示、または変更するには、 ボタンと ボタンを使います。

## アラーム

フィールドの右側にアラームアイコン  が表示される場合は、アラームを設定することができます。アラームに設定した日付に応じて、AssetCenterのアクションテーブルのアクションが起動します。

アラームは、特定の日付に近くなるとトリガされます。AssetCenterでは、様々な操作にアラームを使用できます。

一般に、アラームが起動するアクションは、AssetCenterのユーザに期限（契約期間の満了など）が近づいていることを警告するメッセージの送信などです。

AssetCenterのユーザは、1つまたは2つのレベルのアラームを作成できます。各レベルに期限と起動するアクションを定義します。

2つのレベルをアラームに設定する場合は、第1レベルのアラームで実行したアクションによって、第2レベルのアラームがトリガされるかどうかが決まりません。

- 第1レベルのアラームが、AssetCenterの内部メッセージシステム以外のメッセージシステム（サードパーティのメッセージシステムなど）でメッセージを送信するアクションを起動した場合は、第2レベルのアラームは常に定義された時間にトリガされます。
- 第1レベルのアラームにより、内部メッセージシステムでAssetCenterユーザのグループにメッセージが送信され、受信者の誰かがそのメッセージを開封した場合は、第2レベルに定義されているアクションはトリガされません。


## ショートカットキー


特定の機能は、ショートカットキーを使って迅速に実行できます。

次の表にショートカットキーの一覧を示します。

表 10.1. ショートカットキーの一覧

ショート カット キー	対応するメニューコマンド	カーソルの位置 / 適 用されるウィンドウ	実行内容
<b>リスト内での移動</b>			
[ F12 ] キーまたは は下向き 矢印キー	<b>[ 編集 / 次のレコード ]</b>	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く	次のレコードに移動し ます (フィルタを使っ たり並べ替えたリスト でも同様に機能しま す)。
[ F11 ] キーまたは は上向き 矢印キー	<b>[ 編集 / 前のレコード ]</b>	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	1つ前のレコードに移 動します (フィルタを 使ったり並べ替えたリ ストでも同様に機能し ます)。
[ Ctrl + F11 ] キー または [ Home ] キー	<b>[ 編集 / 最初のレコード ]</b>	リストまたは詳細画 面内にカーソルを置 く。	リストの最初のレコー ドに移動します (フィ ルタを使ったり並べ替 えたリストでも同様に 機能します)。
[ Ctrl + F12 ] キー または [ End ] キー	<b>[ 編集 / 最後のレコード ]</b>	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	リストの最後のレコー ドに移動します (フィ ルタを使ったり並べ替 えたリストでも同様に 機能します)。
[ Page Up ] キー	なし	メインリスト内に カーソルを置く。	リストを1ページ上に 移動します (フィルタ を使ったり並べ替えた リストでも同様に機能 します)。
[ Page Down ] キー	なし	メインリスト内に カーソルを置く。	リストを1ページ下に 移動します (フィルタ を使ったり並べ替えた リストでも同様に機能 します)。
[ Ctrl + G ] キー	ポップアップメニューの <b>[ ジャンプ ]</b> コマンド (マ ウスの右ボタンをクリック して表示)	メインリスト内に カーソルを置き、リ ストは値を検索する 列で並べ替えておく	検索ボックスに入力し た文字で始まる最初の レコードを検索します (フィルタを使ったり 並べ替えたリストでも 同様に機能します)。

ショート カット キー	対応するメニューコマンド	カーソルの位置 / 適 用されるウィンドウ	実行内容
<b>レコードのリストおよび詳細情報の表示</b>			
[ F6 ] キー	[ ウィンドウ / リストの み ]	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	リストだけを表示しま す。
[ F7 ] キー	[ ウィンドウ / 詳細のみ ]	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	詳細だけを表示しま す。
[ F8 ] キー	[ ウィンドウ / リストと詳 細 ]	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	リストと詳細の両方を 表示します。
[ F4 ] キー		詳細画面のリンク上 にカーソルを置く。	リンクしているレコー ドの詳細を表示しま す。
[ F9 ] キー	なし	メインリスト内に カーソルを置く。	リスト内のすべての列 がウィンドウ幅に収ま るように列幅を変更し ます。各列幅の相対比 を保ったまま調節しま す。
[ Ctrl + F9 ] キー	なし	メインリスト内に カーソルを置く。	各列に含まれている項 目のうち、最も長い項 目の長さに合わせて列 幅を調節します (メモ リに読み込まれたレ コード用)。
[ Ctrl + Pg Up ] キー	なし	詳細画面。	左隣のタブページに移 動します。
[ Ctrl + Pg Dn ] キー	なし	詳細画面。	右隣のタブページに移 動します。
[ Alt + Enter ] キー	[ オブジェクトの設定 ]	詳細画面のフィール ドまたはリンク上に カーソルを置く。	オブジェクトの設定画 面を表示します。
[ Insert ] キー	[ 新規作成 ] ボタン	メインリスト内に カーソルを置く。	新規レコードを作成し ます。
[ Delete ] キー	[ 削除 ] ボタン	メインリスト内に カーソルを置く。	選択したレコードを削 除します。
[ + ] およ び [ - ] キー	[ 階層の表示 ]	ツリー構造表示モー ドのメインリスト 内。	選択しているレコー ドのツリーを1レベル表 示または非表示にしま す。

ショート カット キー	対応するメニューコマンド	カーソルの位置/適 用されるウィンドウ	実行内容
[ / ] およ び [ * ] キー	[ 階層の表示 ]	ツリー構造表示モー ドのメインリスト 内。	選択しているレコード のツリーを全レベル表 示または非表示にしま す。
<b>[ Esc ] キー</b>			
[ Esc ] キー	[ 閉じる ] ボタン	リストまたは詳細画 面内にカーソルを置 く。	何も変更していない場 合は、作業中のウィン ドウを閉じます。変更 した場合は、ウィン ドウを閉じる前に保存 することを確認するメ ッセージが表示されま す。
[ Esc ] キー		フィールドまたはリン ク上にカーソルを 置く。	フィールドの値を変更 した場合は、変更を取 り消し、元の値に戻し ます。
<b>ヘルプ</b>			
[ F1 ] キー	[ ヘルプ/トピックの検 索 ]	スクリプトビルダー ウィンドウ以外のす べてのウインドウ。	AssetCenterのメインの オンラインヘルプを表 示します。
[ F1 ] キー	なし	スクリプトビルダー ウィンドウ。	AssetCenterプログラ マーズリファレンスの オンラインヘルプを表 示します。
[ Shift + F1 ] キー	[ ヘルプ/フィールドのヘ ल्प ]	詳細画面のフィール ド、リンク、または タブページのリスト 内にカーソルを置 く。	フィールドまたはリン クのヘルプを表示しま す。
<b>印刷</b>			
[ Ctrl + P ] キー	[ ファイル/印刷 ]	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	印刷ダイアログボック スを表示します。
<b>終了</b>			
[ Alt + F4 ] キー	[ ファイル/終了 ]	すべてのウィンド ウ。	AssetCenterを終了しま す。
<b>編集</b>			

ショート カット キー	対応するメニューコマンド	カーソルの位置 / 適 用されるウィンドウ	実行内容
[ Ctrl + A ] キー	[ 編集 / すべて選択 ]	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	すべてのレコードを選 択します (フィルタを 使ったり並べ替えたり リストでも同様に機能し ます)。
[ Ctrl + X ] キー	[ 編集 / 切り取り ]	フィールドのテキス トを選択している か、タブページのリ ストでレコードを選 択している。	テキストを切り取り、 Windowsのクリップ ボードに入れます。
[ Ctrl + C ] キー	[ 編集 / コピー ]	フィールドのテキス トを選択している か、タブページのリ ストでレコードを選 択している。	テキストまたはレコー ドをコピーし、 Windowsのクリップ ボードに入れます。
[ Ctrl + V ] キー	[ 編集 / 貼り付け ]	テキスト内または、 タブページのリスト でレコード内で、貼 り付ける場所にカー ソルを置く。	Windowsのクリップ ボードからテキストま たはレコードを貼り付 けます。
[ Ctrl + T ] キー	[ ウィンドウ / ツリー構造 で表示 ]	メインリスト、また はリストが表示され ている詳細画面に カーソルを置く。	リストをツリー構造で 表示します。
[ Ctrl + L ] キー	[ ウィンドウ / リスト形式 で表示 ]	メインリスト、また はリストが表示され ている詳細画面に カーソルを置く。	リストをリスト形式で 表示します。
[ Ctrl + . ] キー	なし	カーソルを「日付」 または「日付+時 刻」型のフィールド に置く。	コンピュータの現在の 日付と時刻を挿入しま す。
<b>データ</b>			
[ F5 ] キー	[ ウィンドウ / 更新 ]	メインリストまたは 詳細画面内にカーソ ルを置く。	詳細またはリスト、ま たはその両方を更新し ます。
[ Ctrl + F5 ] キー	[ ツール / キャッシュの更 新 ]	すべてのウィンド ウ。	キャッシュを更新しま す。
<b>ウィザード</b>			

ショート カット キー	対応するメニューコマンド	カーソルの位置 / 適 用されるウィンドウ	実行内容
[ Shift + F9 ] キー	なし	すべてのウィンド ウ。	ウィザードデバグガを 起動します。

## エラーメッセージ

操作を実行できない場合や問題が発生した場合は、エラーメッセージが表示されます。エラーメッセージに問題の原因が明確に記載されているため、このマニュアルでは、個々のメッセージの説明を省きます。

エラーメッセージウィンドウには、エラーメッセージをファイルとして保存できる [保存] ボタンがあります。

また、[コピー] ボタンをクリックすると、クリップボードにエラーメッセージをコピーできます。





